

# Open-Xedge

(旧名称 : SIP4D-Xedge, SIP4D 利活用システム)

## インストールマニュアル

Ver. 3.1.0

2026 年 4 月

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

改訂履歴

Ver	変更内容	改訂日
1.0	初版	H26.03.31
1.0.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• GeoServer のデータストアの DB 名変更方法を追記</li> <li>• 管理画面のメニューのデータ登録を追記</li> <li>• システム管理者がインストール時にデフォルトでセットアップされるため修正。</li> </ul>	H26.07.09
1.0.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PCommonsSOAPClient.jar に関する追記</li> </ul>	H26.9.4
1.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• e コミ 2.4, Java7, Tomcat7 バージョンアップ</li> <li>• 簡易セットアップ画面を自治体セットアップパーに修正</li> <li>• OpenOffice 4 のインストール手順を追記</li> <li>• PostgreSQL の手順の文言を修正</li> <li>• アップグレード手順を追記</li> <li>• 記載の削除 <ul style="list-style-type: none"> <li>• PCommonsSOAPClient.jar に関する記載を削除</li> <li>• テーブルの作成</li> </ul> </li> <li>• 通知機能の設定を追記</li> <li>• e コミマップの URL 設定に追記</li> </ul>	H26.12.25 H27.02.24 H27.03.27 H27.04.23
1.1.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• GeoServer の設定手順を追記</li> </ul>	H27.09.18
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ミドルウェア (Tomcat, OpenOffice) のバージョン修正</li> <li>• 3.2.9. モバイル Push 通知の設定を追記</li> <li>• WEB サーバ設定に ProxyPreserveHost を追記</li> </ul>	H27.11.27
1.4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 動作環境の日本語環境設定に追記</li> <li>• テレメータ受信設定を追記</li> <li>• J-Alert 受信設定を追記</li> </ul>	H28.04.18
1.4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• システム管理者の班名(admin)について追記</li> <li>• ファイルアップロード上限の変更を追記</li> <li>• ファイルアップロード許可する拡張子の追加を追記</li> <li>• クリアリングハウスの設定を追記</li> </ul>	H28.07.19
2.0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 推奨環境の更新</li> <li>• 「自治体を V2.0 にアップグレードする」を追記</li> </ul>	H29.03.22
2.0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Java7 から Java8 に変更</li> <li>• HTTPS の設定方法を追記</li> </ul>	H29.03.23
2.0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• e コミマップのインストール手順を統合</li> <li>• 構成の見直し</li> </ul>	H29.03.24
2.0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Tomcat を 7 から 8.0 にバージョンアップ</li> </ul>	H29.04.05
2.0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• e コミマップの DB 設定方法が変更されたため対応</li> <li>• e コミマップの Java タイムゾーンの設定方法を追加</li> </ul>	H29.04.25
2.0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インストール手順を再確認</li> <li>• アップグレード手順を再確認</li> </ul>	H29.05.10
2.0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PostgreSQL と PostGIS のインストールバージョンを変更 ※pgdg94 でのインストール不可のため</li> </ul>	H29.05.30
2.0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• GeoServer の HTTP リクエストヘッダの上限の変更を追加</li> <li>• バックアップの設定</li> <li>• ログの管理</li> </ul>	H29.06.13

	・再起動の設定	
2.1.0	・ SpringFramework 版のインストール手順に修正	H29.06.15
2.1.0	追加 ・ 6.3.5. geoserver/start.ini の入れ替え (GeoServer アップグレード後のみ)	H29.08.25
2.1.0	・ 6.2.4. 本システムパッケージの展開および各種設定に SAStruts の設定ファイルを削除する手順追加	H29.09.29
2.1.0	・ 本システムの起動でログ確認手順を修正 ・ 自治体の作成で 404 エラーの注意事項を追加 ・ ファイルアップロード上限の設定変更を Spring 版に更新	H29.11.24
2.1.0	・ 多言語化の翻訳エラーログ を追加	H29.11.30
2.2.0	・ クロスサイトスクリプティング(XSS)対策のためのヘッダ (X-Content-Type-Options nosniff) の設定を追加	H30.05.18
2.2.0	・ サーバ環境の Tomcat を 8.0 から 8.5 に変更 ・ Spring Boot 2.0 のバージョンアップに合わせてファイルアップロード上限の変更手順を修正	H30.05.21
2.2.0	・ Tomcat の移行手順を更新	H30.05.23
2.2.0	・ データベースの接続数について追記 ・ e コミマップの手順を Ver2.5.1 に更新 PostGIS2.4/GeoServer2.12.3	H30.07.13
2.3.0	・ ポリゴンレイヤに登録した点が表示されない場合	H30.10.23
2.3.0	・ PostGIS2.3 のままになっていた箇所を 2.4 に修正	H30.11.08
2.3.0	・ Google API キーの設定方法を追記	H30.11.27
2.3.0	・ Tomcat の推奨バージョンを 8.5 以降から 8.5.34 以降に変更	H31.02.25
2.3.0	・ e コミマップ 2.5.3 に合わせた手順に変更	R1.08.02
2.3.0	・ ログイン画面のスクリーンショットを更新	R1.09.12
2.4.0	・ GeoServer querylayer モジュール手順を追加	2019/08/19
2.4.0	・ システム名を SIP4D に統一	20111.0.150
2.4.0	・ Tomcat の利用バージョンを 9 に変更	2020/04/15
2.4.0	・ e コミマップ 2.5.4 に合わせた手順に変更	2020/06/30
2.4.0	・ CentOS7 に合わせた手順に変更 (CentOS6 は削除)	2020/09/23
2.4.1	・ HTML ファイルアップロードのセキュリティ対応	2021/01/08
2.4.1	・ Java のインストール手順の調整	2021/05/17
2.5.0	・ バージョンを 2.5.0 に修正 ・ Java のバージョン調整 ・ Tomcat のバージョンを調整 (9.0.46) ・ IPA フォントのダウンロード URL を修正 ・ 自治体作成手順を調整 ・ 5.3.13.クリアリングハウスの設定に追記 CKAN_DATASET_URL を追加 CKAN_DOWNLOADABLE_FORMATS の値に XYZTILE, SIP4D-ZIP を追加 ・ 5.3.14.GeoJSON 取込の設定に追記 HTTP によるダウンロードの設定を追加 ・ 5.3.15. SIP4D アップロード設定を追記	2021/06/10
2.5.1	・ バージョンを 2.5.1 に修正	2021/07/19
2.6.0	・ バージョンを 2.6.0 に修正	2021/07/20

2.6.0	・elFinder インストール方法を追記	2021/09/24
2.7.0	・バージョンを 2.7.0 に修正	2021/11/12
2.7.0	・ 2.2.9.gdal2tiles のインストールを追記 ・ 5.3.1.GeoTIFF 地図追加機能の設定を追記	2021/12/17
2.7.0	・ e コミマップの手順を Ver2.5.1 に更新	2022/01/12
2.7.0	・ 5.3.17 タイル地図取り込みの設定を追加	2022/05/31
2.7.0	・ 5.3.14.GeoJSON 取込の設定を追記 FTP・SFTP ダウンロード 自治体別設定	2022/6/10
2.7.0	・ e コミマップの手順を Ver2.6.0 に更新	2022/06/15
2.7.0	OS を Oracle Linux 8 を前提に全面的に見直し (CentOS の記述内容を削除、主な変更は以下) ・ 2.1.1. サーバ環境の変更 (Red Hat Enterprise Linux ES 7・CentOS 7 削除) ・ 2.2.5.PostgreSQL と PostGIS のインストールについて CentOS7 対応の項目を削除 ・ 3.12.4 インストール完了画面 画像差替	2022/07/29
2.7.0	・ Tomcat を systemd 方式に変更 ・ Tomcat の trimSpaces 設定を追加 ・ 6. アップグレード手順を調整 ・ 7.1. セッションの設定を追加	2022/08/02
2.8.0	・バージョンを 2.8.0 に修正 ・ 5.3.14.GeoJSON 取込の設定を変更	2022/12/05
2.8.0	・ OpenOffice のインストール手順を削除	2023/06/16
2.8.0	・ 5.3.14.GeoJSON 取込の設定を修正	2023/08/03
2.9.0	・バージョンを 2.9.0 に修正	2023/11/21
2.9.0	・ 5.3.18. SIP4D-ZIP(payload_type=MAP) 取込の設定 追記	2024/05/16
2.9.0	・ システム名称を「SIP4D-Xedge」に変更	2024/05/30
2.9.0	・ HTTP/2 設定方法を追記	2024/06/17
2.9.0	・ 本システムのアップグレード の手順変更	2024/07/26
2.9.0	・ e コミマップの手順を Ver2.7.0 に更新 ・ PostgreSQL16 + PostGIS3.4 に変更 ・ GeoServer 2.22.2 + 脆弱性対策パッチ に変更	2024/09/10
2.9.0	・ 5.6.自治体の作成 に UUID 復元の説明追記	2024/09/11
2.10.0	・バージョンを 2.10.0 に修正	2024/09/13
2.10.0	・ gdal2tiles.py を gdal38-python-tools 手順に変更 (pip install 手順を廃止)	2024/10/08
2.10.0	・ 6.2.本システムのアップグレードを見直し	2024/10/23
2.10.0	・ 5.3.18 X-ICS 同期処理の設定を追記	2024/10/30
2.10.0	・ 5.3.18 X-ICS 同期処理の設定 DEVICELOCATION_ALERTMAG_MIN_INTERVAL を追加	2024/11/08
2.10.0	通信途絶機能削除に伴う微調整 ・ 7.4.ファイルアップロード許可する拡張子の追加	2025/01/09
2.10.0	・ 5.3.19.公開ビューの公開フラグ表示名の設定 追記	2025/01/15
2.10.0	・ 5.3.19.公開ビューの公開フラグ表示名の設定 追記	2025/01/20
2.10.0	・ システム名称を「Open-Xedge」に変更	2025/06/10
2.10.0	・ 設定ファイル名の誤字修正	2025/06/30

3.0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バージョンを 3.0.0 に修正</li> <li>・ 5.2.1 X-ICS 同期処理の設定に追記</li> <li>・ 5.2.3 市民向け簡易スマホサイト 追記</li> <li>・ 5.2.4 SOBO-WEB 接続 (送受信) 設定 追記</li> </ul>	2025/12/26
3.1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ e コミマップの手順を V3.0 に更新</li> <li>・ Java21 対応</li> </ul>	2026/01/19
3.1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ e コミマップ・Xedge のアップデート手順修正</li> </ul>	2026/02/17
3.1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ e コミマップ 3.0 に合わせて GeoServer2.28.2 に更新</li> </ul>	2026/03/13
3.1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2.2.7 gdal2tiles のインストール 修正</li> <li>・ 5.2.15 GeoTIFF 地図追加機能の設定 修正</li> </ul>	2026/04/30

## 目次

1.	はじめに	1
2.	動作環境の準備	1
2.1.	推奨環境	1
2.1.1.	サーバ環境	1
2.1.2.	ネットワーク環境	2
2.2.	動作環境のインストール	4
2.2.1.	コマンドのインストール	4
2.2.2.	日本語環境のインストール	4
2.2.3.	HTTP サーバ (httpd) のインストール	4
2.2.4.	Java のインストール	5
2.2.5.	PostgreSQL と PostGIS のインストール	6
2.2.6.	elFinder のインストール	8
2.2.7.	gdal2tiles のインストール	11
2.2.8.	Tomcat のインストール	12
3.	e コミマップのインストール	15
3.1.	e コミマップ用データベースの作成 (不要)	15
3.2.	e コミマップのインストール	16
3.2.1.	e コミマップのインストール設定	16
3.2.2.	e コミマップのインストールファイル	17
3.2.3.	e コミマップのインストールの実行	17
3.3.	Tomcat デプロイ	18
3.4.	Web サーバとポートの設定	18
3.5.	HTTPS 運用時の設定	20
3.6.	(参考情報) e コミマップのインストールをやり直す場合	21
4.	GeoServer の設定変更	22
4.1.	GeoServer の拡張機能 querylayer モジュールの追加	22
4.2.	時系列レイヤの InvalidDimensionValue エラー対策	22
5.	本システムのインストール	23
5.1.	Web サーバの設定	23
5.2.	本システムパッケージの展開および各種設定	25
5.2.1.	Tomcat を停止	25
5.2.1.	TOMCAT_HOME を一時的に設定	25
5.2.2.	本システムパッケージの展開	25
5.2.3.	データベースの接続設定	25
5.2.4.	気象庁 XML の取得設定	26
5.2.5.	テレメータの受信設定	26
5.2.6.	J-Alert の受信設定	27
5.2.7.	e コミマップの URL 設定	27
5.2.8.	e コミマップのディレクトリ設定	27
5.2.9.	通知機能の設定	27
5.2.10.	ジオコーダの設定	28
5.2.11.	モバイル Push 通知の設定	29
5.2.12.	クリアリングハウスの設定	29

5.2.13.	GeoJSON 取込の設定 .....	30
5.2.14.	SIP4D アップロードの設定 .....	33
5.2.15.	GeoTIFF 地図追加機能の設定 .....	34
5.2.16.	SIP4D-ZIP(payload_type=MAP)取込の設定 .....	35
5.2.1.	X-ICS 同期処理の設定 .....	36
5.2.2.	公開ビューの公開フラグ表示名の設定 .....	42
5.2.3.	市民向け簡単入力スマホサイトの設定 .....	42
5.2.4.	SOBO-WEB 接続（送受信）設定 .....	44
5.3.	本システムを Tomcat に配備 .....	45
5.3.1.	Tomcat コンテキスト定義の作成 .....	45
5.4.	本システムの起動 .....	46
5.5.	自治体の作成 .....	47
5.6.	自治体を V2.0 にアップグレードする .....	50
5.6.1.	時系列化 .....	50
5.6.2.	災害類型統合化 .....	51
6.	アップグレード手順 .....	52
6.1.	e コミマップのアップグレード .....	52
6.1.1.	GeoServer アップデート後の追加設定 .....	52
6.2.	Tomcat の移行手順 .....	53
6.2.1.	Tomcat の停止 .....	53
6.2.2.	TOMCAT_HOME の変数を設定 .....	53
6.2.3.	本システムの移動 .....	53
6.2.4.	コンテキスト定義の移動 .....	53
6.2.5.	古い Tomcat の削除 .....	53
6.2.6.	ファイルの所有者変更 .....	53
6.2.7.	Tomcat を起動する前に .....	54
6.3.	本システムのアップグレード .....	55
6.3.1.	Tomcat の停止 .....	55
6.3.1.	TOMCAT_HOME の変数を設定 .....	55
6.3.2.	バックアップ .....	55
6.3.3.	古いソースの削除 .....	55
6.3.4.	本システムパッケージの展開および各種設定 .....	55
6.3.5.	本システムの起動 .....	56
6.3.6.	自治体を V2.0 にアップグレードする .....	56
7.	その他の設定 .....	57
7.1.	システム時間の設定 .....	57
7.2.	ファイルアップロード上限の変更 .....	57
7.3.	ファイルアップロード許可する拡張子の追加 .....	57
7.4.	HTTPS で接続する場合に必要な設定 .....	58
7.5.	GeoServer の HTTP リクエストヘッダの上限の変更 .....	59
8.	問合せ先 .....	60

## 1. はじめに

本書は、「Open-Xedge (SIP4D-Xedge )」(以下、本システム) の Ver3.0 をシステム運用環境にインストールするために必要な情報及び、手順を整理し、まとめたものである。

## 2. 動作環境の準備

本システムをインストールするために事前に準備しておく環境とミドルウェアのインストールについて下記に記載する。

### 2.1. 推奨環境

本システムをインストールするためには、以下のソフトウェア環境とそれが動作する十分なハードウェアスペックが必要となる。

ハードウェアのスペックは運用規模に応じて余裕のある構成にしておくこと。

#### 2.1.1. サーバ環境

表 1 ソフトウェア環境

名称	ソフトウェア詳細
OS	Red Hat Enterprise Linux ES 9 OracleLinux 9 (※64bitOS 推奨) その他 Linux は動作未確認
Web サーバ	Apache 2.2.4 以降
Java ランタイム	Java 21 (JDK)
Servlet エンジン	Tomcat 11.0 以降
GIS 用データベース	PostgreSQL16 + PostGIS3 (PostgreSQL16 + PostGIS3.4 推奨)
GIS エンジン	GeoServer 2.28.2 (Jetty 10.0.25) e コミマップ 3.0.0 以降

表 2 ハードウェア環境 (利用環境によって異なる)

名称	ハードウェア詳細
CPU	64bitCPU (4 コア以上推奨)
メモリ	8GB DDR2 以上 (16GB 以上推奨)
ハードディスク空き容量	100GB 以上 (登録予定のコンテンツ量に応じた空き容量を準備)

## 2.1.2. ネットワーク環境

### 2.1.2.1 URL とポートの確認

以下の URL を利用していないことおよび、ポート番号 8080 を利用していないことを確認する。

```
http://サーバ名/SaigaiTask
```

```
http://サーバ名/map
```

GeoServer については、以下の URL を利用していないことおよび、ポート番号 18080 を利用していないことを確認する。

```
http://サーバ名/geoserver
```

### 2.1.2.2 ホスト名の設定変更方法

設定例： サーバの FQDN が server.domain.com の場合

- ホスト名の設定

環境変数 HOSTNAME にサーバのドメイン名 (FQDN) が設定されていることを確認する。

```
echo $HOSTNAME
```

サーバの FQDN が出力されなければ、下記のコマンドを実行して環境変数に設定する。

```
export HOSTNAME=server.domain.com
```

/etc/sysctl.d/disable\_ipv6.conf を作成する。

```
## IPv6 Disable
net.ipv6.conf.all.disable_ipv6 = 1
net.ipv6.conf.default.disable_ipv6 = 1
```

/etc/sysctl.d/disable\_ipv6.conf を反映する。

```
# sysctl --system
```

- ホスト名の名前解決の設定

/etc/hosts に localhost の設定およびサーバ名 (FQDN) が設定されていることを確認する。なければ編集する。

```
127.0.0.1 localhost
#::1 localhost localhost.localdomain localhost6 localhost6.localdomain6
127.0.0.1 server.domain.com
```

### 2.1.2.3 SELinux の設定確認

以下を実行して SELinux を無効にする。

```
/usr/sbin/setenforce 0
```

再起動後も無効になるように /etc/selinux/config を編集する。

```
# This file controls the state of SELinux on the system.
# SELINUX= can take one of these three values:
#     enforcing - SELinux security policy is enforced.
#     permissive - SELinux prints warnings instead of enforcing.
#     disabled - SELinux is fully disabled.
SELINUX=disabled
# SELINUXTYPE= type of policy in use. Possible values are:
#     targeted - Only targeted network daemons are protected.
#     strict - Full SELinux protection.
SELINUXTYPE=targeted
```

#### 2.1.2.4 firewall の設定確認

ポート 80 が開放されていない場合は、以下を実行してポートを開放する。

```
firewall-cmd --add-service=http --zone=public --permanent
firewall-cmd --reload
```

## 2.2. 動作環境のインストール

インターネットに接続可能なサーバで動作環境をインストールする方法について記載する。

### 2.2.1. コマンドのインストール

インストール時に使うコマンドをあらかじめ dnf でインストールする。

```
dnf install -y wget tar zip unzip
```

### 2.2.2. 日本語環境のインストール

クラウド等の環境で、日本語環境がインストールされていない場合、地図のラベル等が正常に表示されません。(□□□□ のように表示される)

以下の手順で日本語環境の設定を行ってください。

#### OracleLinux 9 の場合

- 言語パッケージのインストール (入っていない場合)

```
dnf -y install langpacks-ja glibc-langpack-ja
```

- 日本語フォントのインストール

```
cd /usr/share/fonts
wget https://moji.or.jp/wp-content/ipafont/IPAexfont/ipaexg00401.zip
unzip ipaexg00401.zip
rm ipaexg00401.zip
fc-cache -fv
```

- Locale の変更

```
localectl set-locale LANG=ja_JP.UTF-8
source /etc/locale.conf
```

- タイムゾーン設定変更

```
timedatectl set-timezone Asia/Tokyo
```

### 2.2.3. HTTP サーバ (httpd) のインストール

コンソールで以下のコマンドを実行する。

```
dnf install httpd mod_ssl
```

HTTP サーバが OS 再起動時に自動的に実行されるように以下のコマンドを実行する。

```
systemctl enable httpd
```

HTTP サーバを起動する。

```
systemctl start httpd
```

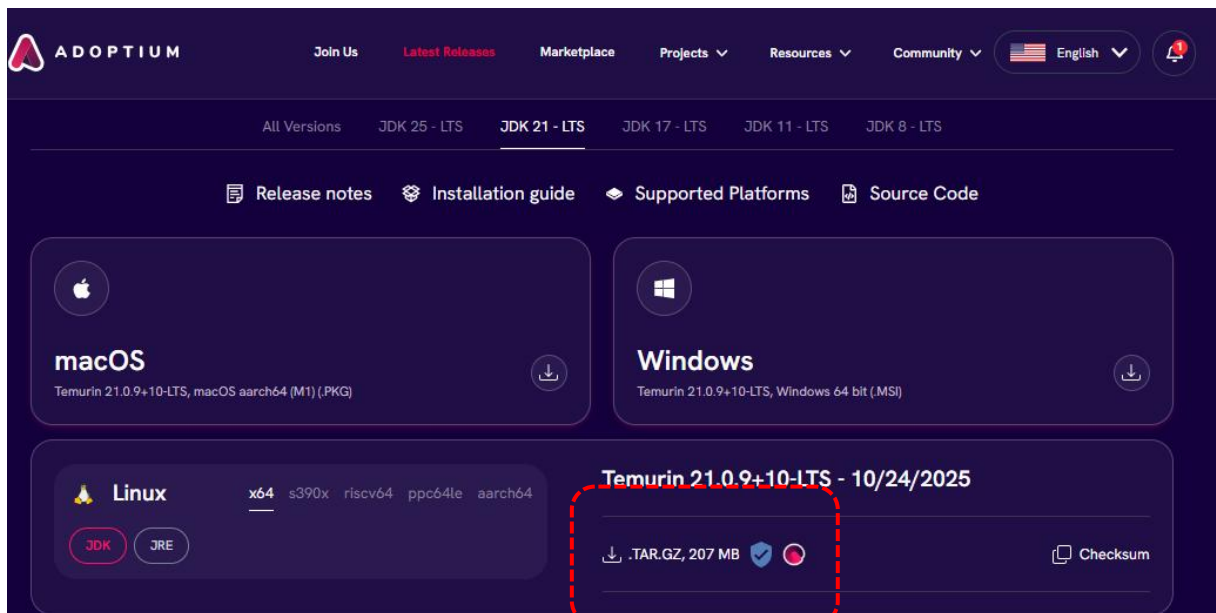
動作チェックを行う。

```
http://サーバ名/
```

上記 URL を Web ブラウザで表示して Apache 2 Test Page が表示されることを確認する。

## 2.2.4. Java のインストール

- OpenJDK のインストール（※以下は 2026 年 1 月の情報です）  
<https://adoptium.net/> の Temurin を利用します。（※旧 AdoptOpenJDK）  
 ※他の OpenJDK も基本的に利用可能です。



<https://adoptium.net/temurin/releases?version=21> で以下を選択して JDK をダウンロードします。

```
Operating System 「Linux」
Architecture 「x64」
Package Type 「JDK」
Version 「21 - LTS」
```

ダウンロードしたファイルを、/usr/java/ に解凍して、/usr/java/default を JAVA\_HOME として利用できるようにリンクします。

```
mkdir /usr/java
cd /usr/java
```

ダウンロードしたファイルを /usr/java/ に配置

```
tar zxvf OpenJDK21U-jdk_x64_linux_hotspot_21.0.9_10.tar.gz
ln -s jdk-21.0.9+10 default
```

### 2.2.5. PostgreSQL と PostGIS のインストール

dnf で必要なパッケージをインストールします。

```
dnf -y install https://dl.fedoraproject.org/pub/epel/epel-release-latest-9.noarch.rpm

dnf -y module disable postgresql
dnf -y install https://download.postgresql.org/pub/repos/yum/reporpms/EL-8-x86\_64/pgdg-redhat-repo-latest.noarch.rpm
dnf -y install --enablerepo=ol9_codeready_builder postgresql16
dnf -y install --enablerepo=ol9_codeready_builder postgresql16-server
dnf -y install --enablerepo=ol9_codeready_builder postgis34_16

/usr/pgsql-16/bin/postgresql-16-setup initdb
```

/var/lib/pgsql/16/data/pg\_hba.conf を編集します。

```
# "local" is for Unix domain socket connections only
local all all trust
# IPv4 local connections:
host all all 127.0.0.1/32 trust
# IPv6 local connections:
#host all all ::1/128 scram-sha-256
# Allow replication connections from localhost, by a user with the
# replication privilege.
local replication all peer
host replication all 127.0.0.1/32 scram-sha-256
#host replication all ::1/128 scram-sha-256
```

/var/lib/pgsql/16/data/postgresql.conf を修正します。

```
listen_addresses = 'localhost'
port = 5432
max_connections = 256
```

設定を反映するために PostgreSQL を再起動してください。

```
systemctl restart postgresql-16.service
systemctl enable postgresql-16.service
```

※ DB 接続数はデフォルト設定の場合は下記の通りであるため、  
max\_connections の設定は下記を留意すること。

	初期状態	最小	最大
e コミマップ	10	10	50
GeoServer	0	4	10
Open-Xedge	0	10	10

## 2. 動作環境の準備

---

Open-Xedge の e コミマップライブラリ	30	30	100
合計	40	54	170

### 2.2.6. elFinder のインストール

elFinder をダウンロードして、インストールする。(※以下は 2021 年 8 月 27 日現在の情報)

PHP8.0 をインストールする

```
# dnf install php php-json php-fpm
# systemctl enable php-fpm
# systemctl start php-fpm
```

Stable のビルドパッケージを DocumentRoot にダウンロードして展開する。

<https://github.com/Studio-42/elFinder#downloads>

elFinder 2.1.66 (2026/01/05 時点)

```
# cd /var/www/html
# wget https://github.com/Studio-42/elFinder/archive/2.1.66.zip -O elFinder-2.1.66.zip
# unzip elFinder-2.1.66.zip
# mv elFinder-2.1.66 elFinder
```

管理者を apache に変更する。

```
# chown -R apache. elFinder
```

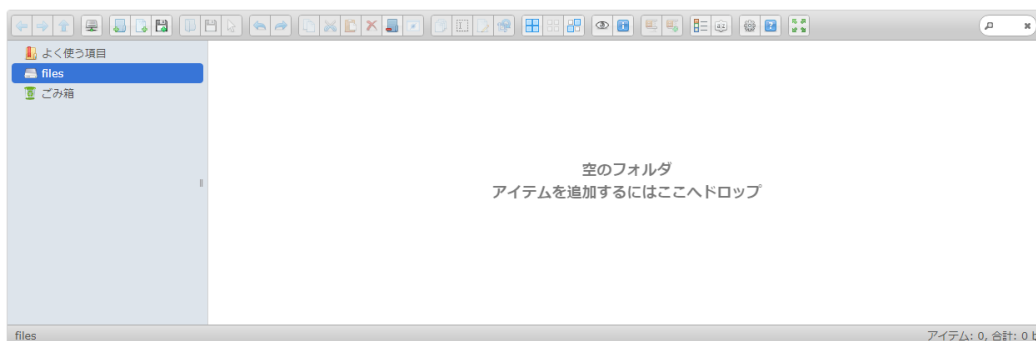
elFinder/php/connector.minimal.php を配置する。

```
# mv elFinder/php/connector.minimal.php-dist
elFinder/php/connector.minimal.php
```

apache httpd を再起動する。

```
# systemctl restart httpd
```

<https://ドメイン/elFinder/elfinder.html> にアクセスして、elFinder の UI が表示されることを確認する。

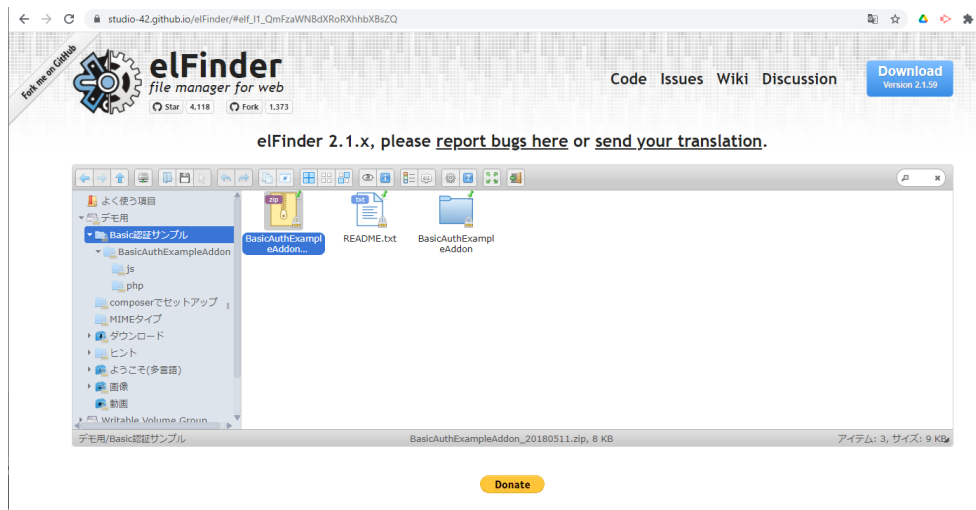


#### 2.2.6.1 Basic 認証のインストール

BASIC 認証サンプルをダウンロードする。

[https://studio-42.github.io/elFinder/#elf\\_11\\_Lw](https://studio-42.github.io/elFinder/#elf_11_Lw)

BasicAuthExampleAddon\_20180511.zip



elFinder ディレクトリに展開する。

パスワードのハッシュ値を設定します。

```
# vi elFinder/php/connector.basicauth.php
if (isset($_GET['login']) || isset($_GET['logout']) || isset($_GET['status']))
{
    $auths = array(
        // you can make pass_hash with password_hash()
        // http://php.net/manual/function.password-hash.php
        'admin' => 'admin_pass_hash',
        'user1' => 'user1_pass_hash'
    );
}
```

### 2.2.6.2 複数自治体で運用する場合

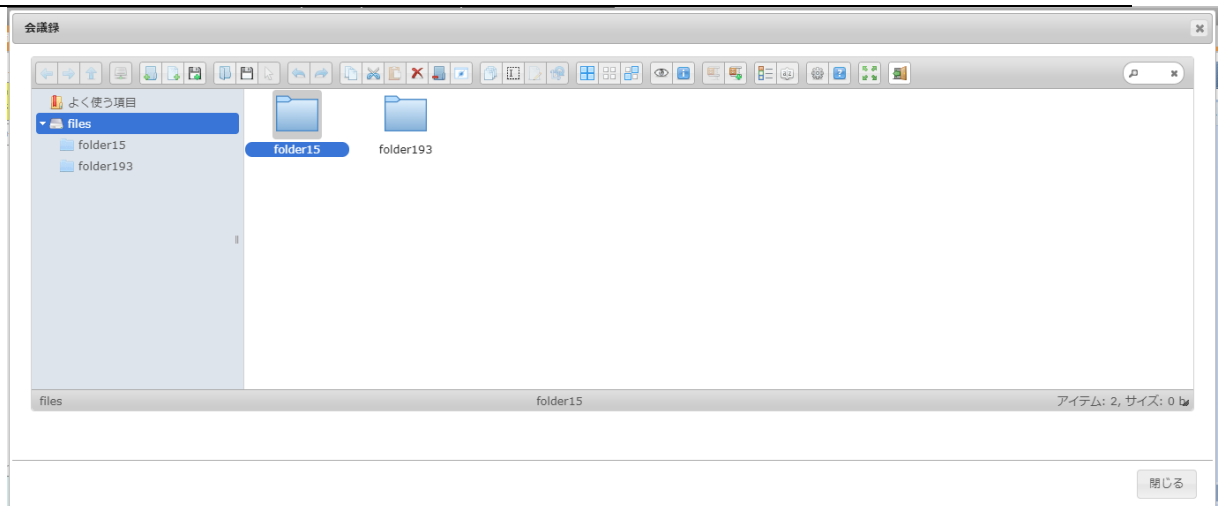
elFinder メインディレクトリにある、main.basicauth.js を、Open-Xedge のソース管理にある、

/src/main/webapp/js/elfinder/main.basicauth.js と入れ替える。

php/connector.basicauth.php を、php/connector.basicauth[自治体番号].php にコピーする。(例：自治体番号：15 の場合)

```
# cp php/connector.basicauth.php php/connector.basicauth15.php
```

自治体専用フォルダーを作成する。



以下のように、自治体用フォルダーを指定する。

```
# vi elFinder/connector.basicauth15.php
$folder = '../files/folder'.$_GET['key']; <—追加
$opts = array(
    // 'debug' => true,
    'roots' => array(
        array(
            'driver'    => 'LocalFileSystem',
            // 'path'    => './files/', <—コメント
            'path'      => $folder, <—追加
```

Open-Xedge からアクセスすると、自治体専用フォルダーにアクセスできるようになる。

### 2.2.6.3 注意点

※elFinder にアップロードされたファイルは、Open-Xedge からのアクセスのみ受け付けるものではない。個人情報など重要なファイルはアップロードしないか、さらなる認証機構を追加すること。

※複数自治体で運用する場合も、他の自治体のファイルを完全に見えなくするものではない。そのような利用をする場合は、さらなる認証機構を追加すること。

---

### 2.2.7. gdal2tiles のインストール

この手順では GeoTIFF ファイルから XYZ タイルを生成するコマンド gdal2tiles をインストールする。

gdal をインストールする。

※OracleLinux 8 の手順です。(OracleLinux9 は epel、codeready\_builder の読み替え必要)

```
dnf install --enablerepo=ol9_codeready_builder gdal312 gdal312-python3
gdal312-python-tools
```

下記のコマンドを実行してバージョンが表示されることを確認する。

```
/usr/gdal312/bin/gdal2tiles.py --version
```

※以下のようなバージョンが表示されたら問題ない。

~~GDAL 3.2.3, released 2021/04/27~~

~~GDAL 3.4.3, released 2022/04/22~~

~~GDAL 3.8.5, released 2024/04/02~~

GDAL 3.12.3 "Chicoutimi", released 2026/03/17

### 2.2.8. Tomcat のインストール

本システム及び e コミマップの Servlet エンジンである Tomcat をインストールする。

#### (1) Tomcat11 実行環境のダウンロード

<https://tomcat.apache.org/download-11.cgi> の「tar.gz」を選択し、  
ファイルをダウンロードし、/usr/local の下に配置する。

サーバ上で直接ダウンロードする場合は下記のコマンドを実行する。

```
cd /usr/local
wget https://d1cdn.apache.org/tomcat/tomcat-11/v11.0.15/bin/apache-tomcat-11.0.15.tar.gz
```

※上記は 2026/1/8 時点のバージョンである。

※Tomcat11 の最新バージョンを推奨する。

#### (2) Tomcat のインストール

※ 以下の例では、tomcat のインストール先を「/usr/local/apache-tomcat-11」としている。これより、tomcat のインストール先は `${TOMCAT_HOME}` と置き換る。

```
cd /usr/local
tar zxvf apache-tomcat-11.0.15.tar.gz
```

シンボリックリンクを作成する。

```
ln -s apache-tomcat-11.0.15 apache-tomcat-11
```

tomcat ユーザを作成し、オーナーを変更する。

```
useradd -r -s /sbin/nologin tomcat
chown -R tomcat:tomcat /usr/local/apache-tomcat-11.0.15
```

### (3) Tomcat のサービス登録

本システムのインストールパッケージに含まれている Tomcat ユニットファイルを配置してサービスとして登録し、自動起動設定をする。

コンソールで以下を実行する。

```
cp tomcat11.service /etc/systemd/system/  
systemctl daemon-reload  
systemctl enable tomcat11.service
```

ユニットファイルには、`JAVA_HOME`、`CATALINA_HOME`、`UMASK`、`CATALINA_PID` といった設定がある。(必要に応じて要調整)

### (4) Tomcat の環境変数設定

本システムのインストールパッケージに含まれている Tomcat 環境変数を定義した `setenv.sh` を配置する。

コンソールで以下を実行する。

```
cp setenv.sh /usr/local/apache-tomcat-11/bin/  
chmod 750 /usr/local/apache-tomcat-11/bin/setenv.sh
```

`setenv.sh` には `JAVA_OPTS`、`CATALINA_OPTS` といった設定がある。(必要に応じて要調整)

### (5) Tomcat の設定

`${TOMCAT_HOME}/conf/server.xml` のポート 8080 の Connector の定義を以下のよう修正する。

```
<Connector port="8080" protocol="HTTP/1.1"  
    maxThreads="200" minSpareThreads="200" maxSpareThreads="200"  
    connectionTimeout="20000"  
    redirectPort="8443"  
    URIEncoding="UTF-8"  
    maxPostSize="10485760"  
    maxParameterCount="50000"  
    maxPartCount="-1"  
    relaxedPathChars="[]|"  
    relaxedQueryChars="[]|{}^¥`"  
/>
```

### (6) Tomcat の trimSpaces 設定

JSP の余計な空行を削除する設定をいれる。

`${TOMCAT_HOME}/conf/web.xml` の `jsp` サブレットを以下のように修正する。

※`trimSpaces=true` の `init-param` を追加する

```
<servlet>  
    <servlet-name>jsp</servlet-name>  
    <servlet-class>org.apache.jasper.servlet.JspServlet</servlet-class>
```

```
<init-param>
  <param-name>fork</param-name>
  <param-value>>false</param-value>
</init-param>
<init-param>
  <param-name>xpoweredBy</param-name>
  <param-value>>false</param-value>
</init-param>
<init-param>
  <param-name>trimSpaces</param-name>
  <param-value>>true</param-value>
</init-param>
<load-on-startup>3</load-on-startup>
</servlet>
```

#### (7) Tomcat の起動

コンソールで以下を実行する。

```
systemctl start tomcat11
```

上記コマンドを実行後、エラーが表示されなければ、正常に tomcat が起動されている。

### 3. e コミマップのインストール

本章は、e コミマップのインストール手順書から抜粋して記載したものである。

この章では e コミマップ標準のインストール手順に従って e コミマップのインストールを行う。

下表のとおり、データベース名のみ変更して e コミマップのインストールを行うこと。

表 3 e コミマップ構成変更項目

構成	変更点
データベース名	ecommap ⇒ ecommap_saigaitask

#### e コミマップのインストール手順

e コミマップインストール先は任意のパスを指定可能になっています。

本手順書では、インストール作業用パスを /home/map として記述しています。

#### 3.1. e コミマップ用データベースの作成 (不要)

DB 作成は不要です。

インストールスクリプトの DB 処理時に指定した DB が作成されます。

※ 事前に DB 設定を行いたい場合は、インストール前に作成することもできます。  
e コミマップ用の DB 名は任意の物を指定。(以下の例では「ecommap」を利用)  
以下のコマンドで DB を作成し、PostGIS の Extension を有効にします。

```
createdb -U postgres -E UTF-8 ecommap
psql -U postgres ecommap
CREATE EXTENSION IF NOT EXISTS postgis;
```

※ 別途ユーザを作成する場合はデータベースにユーザを作成し、データベースの権限を設定します。(例では mapuser というユーザを作成)

```
su - postgres
createuser mapuser -S -d -R -l -password
「パスワード入力」
createdb ecommap -U mapuser -E UTF-8
psql -U postgres ecommap
GRANT ALL ON DATABASE ecommap TO mapuser;
GRANT ALL ON geometry_columns TO mapuser;
GRANT ALL ON spatial_ref_sys TO mapuser;
```

## 3.2. e コミマップのインストール

インストールパッケージに含まれるシェルスクリプトをサーバ上に配置して実行します。

### 3.2.1. e コミマップのインストール設定

インストールする環境に合わせて以下を環境変数で設定してください。

(環境変数を設定する代わりに、スクリプトファイル内の初期値を書き換えてから実行することも可能です)

変数名	説明	スクリプト初期値
ECOMMAP_LANG	システムのデフォルトの言語 システム管理画面等でこの言語で表示されます。 サイト毎に別途言語は指定できます。 ja: 日本語 en: 英語	ja
JAVA_HOME	Java のインストールパス	/usr/java/default
DATABASE_HOST	DB 接続情報 サーバ名	localhost
DATABASE_PORT	DB 接続情報 ポート	5432
DATABASE_NAME	e コミマップインストール先のデータベース名	
DATABASE_USER	DB 接続情報 ユーザ ※DB 作成権限のないユーザ指定する場合は事前に DB を作成してください	
DATABASE_PASS	DB 接続情報 空欄可	
ECOMMAP_ADMIN_PASS	システム管理者のパスワード admin ユーザのログインで利用します	
GEOSEVER_REST_PASS	GeoServer の REST-API 用のパスワード 内部的な連携で利用	指定がなければ自動生成
ECOMMAP_SITE_NAME	e コミマップのサイト名 (インストール後に管理画面で変更可)	ecommap
ECOMMAP_LOCAL_URL	e コミマップの内部 URL (ポート番号を変更する場合に設定)	http://localhost:8080
ECOMMAP_PROTOCOL	e コミマップを https 運用する場合に「https」を設定します	
GEOSEVER_HOME	GeoServer のパス インストールパスからの相対パスまたはフルパスで指定します。	geoserver
GEOSEVER_URL	GeoServer の内部 URL ※ポート番号やサーバ名を変更する場合に指定	http://localhost:18080

以下は DB とパスワードのみの基本的な設定の例です。

```
export ECOMMAP_LANG=ja
export JAVA_HOME=/usr/java/default

export DATABASE_HOST=localhost
export DATABASE_PORT=5432
```

```
export DATABASE_NAME=ecommap_saigaitask
export DATABASE_USER=postgres
export DATABASE_PASS=

export ECOMMAP_ADMIN_PASS=ErtT7e87
export GEOSERVER_REST_PASS=aSs5itg4
export GEOSERVER_HOME=/home/geoserver
```

補足

※DATABASE\_NAME は「ecommap\_saigaitask」を指定してください。

### 3.2.2. e コミマップのインストールファイル

インストール用のファイルをインストール作業用パスに配置してください。  
インストール作業用パスには以下のファイルが配置されている必要があります。

ファイル名	説明
install.sh	インストール実行用のスクリプト
ecommap-installer-3.0.tar.gz	e コミマップインストーラー
geoserver-2.28.2-bin.zip	GeoServer
geoserver-2.28.2-vectortiles-plugin.zip	GeoServer ベクタータイルプラグイン
dojo-release-1.9.4.tar.gz	Dojo Toolkit
IPAFont00303.zip	IPA フォントファイル

- GeoServer

公式サイト <https://geoserver.org/release/2.28.2/> の「Platform Independent Binary」からダウンロード。

<https://sourceforge.net/projects/geoserver/files/GeoServer/2.28.2/geoserver-2.28.2-bin.zip>

- GeoServer ベクタータイルプラグイン

<https://sourceforge.net/projects/geoserver/files/GeoServer/2.28.2/extensions/geoserver-2.28.2-vectortiles-plugin.zip>

- Dojo Toolkit

「dojo-release-1.9.4.tar.gz」ダウンロードリンク：

<https://download.dojotoolkit.org/release-1.9.4/dojo-release-1.9.4.tar.gz>

- IPA フォントファイル

<https://moji.or.jp/ipafont/ipa00303/> のサイトから IPAex フォントをダウンロード。

「IPAFont00303.zip」ダウンロードリンク：

<https://moji.or.jp/wp-content/ipafont/IPAFont/IPAFont00303.zip>

### 3.2.3. e コミマップのインストールの実行

※日本語でインストールする場合は事前に日本語環境に設定してください。

インストール用シェルスクリプトを実行（インストールパスが /home/map の場合）

```
cd /home/map
```

```
export LANG=ja_JP.UTF-8  
sh install.sh
```

パラメータと Java のバージョンが表示された後、確認メッセージが表示されます。  
インストールを実行する場合は「y」を入力してください。

```
Install ? (y/N): y
```

インストールが正常に完了した場合は以下のメッセージが表示されます。

```
-----  
ecommap 3.0 installed.  
-----
```

インストール完了後に、GeoServer のサービス登録を行うか確認メッセージが表示されます。  
「y」を入力してください。

```
Do you want to register the GeoServer service? (Y/n):
```

### 3.3. Tomcat デプロイ

Tomcat が起動中であれば停止します。

```
systemctl stop tomcat11
```

war ファイルは作成せず、展開された状態で Tomcat の webapp にファイルをコピーして配置します。

```
cd /home/map  
cp -rp webapps/map /usr/local/apache-tomcat-11/webapps/  
chown -R tomcat /usr/local/apache-tomcat-11/webapps/map
```

デプロイ後に Tomcat を再起動します。

```
systemctl restart tomcat11
```

ログ出力先変更

Tomcat のパスが /usr/local/apache-tomcat-11 以外の場合は、  
webapps/map/WEB-INF/classes/log4j2.xml 内のパスを変更する必要があります。  
以下の fileName と filePattern の箇所にパスの記載があります。

```
fileName="/usr/local/apache-tomcat-11/logs/map.log"  
filePattern="/usr/local/apache-tomcat-11/logs/map.%d{yyyy-MM-dd}.log">  
  
fileName="/usr/local/apache-tomcat-11/logs/map-error.log"  
filePattern="/usr/local/apache-tomcat-11/logs/map-error.%d{yyyy-MM-dd}.log">
```

### 3.4. Web サーバとポートの設定

e コミマップを、80 ポートでアクセス利用可能な状態に設定します。

※ 「2.1.2 ネットワーク環境」 の設定が完了しているか確認してください。

※ 変更前に Web サーバの設定ファイルのバックアップ作成を推奨します。  
(Web サーバの設定ファイルが `/etc/httpd/conf/httpd.conf` の場合)

```
cp /etc/httpd/conf/httpd.conf /etc/httpd/conf/httpd.conf.bak
```

以下のコマンドで、HOSTNAME にサーバの FQDN が設定されていることを確認します。

```
echo $HOSTNAME
```

サーバの URL が「`http://server.domain.com`」の場合「`server.domain.com`」と表示されることを確認します。

※ 表示されない場合は `/etc/hostname` または `/etc/sysconfig/network` を修正して再起動してください。

以下のコマンドで、利用する FQDN が `127.0.0.1` になっていることを確認します。

```
cat /etc/hosts
```

インストールパスで以下のコマンドを実行します。

Web サーバの Proxy 設定ファイルが `/etc/httpd/conf.d/mod_proxy.conf` の場合

```
sh proxypass.sh $HOSTNAME >> /etc/httpd/conf.d/mod_proxy.conf
```

※ 直接ドメイン名を指定する場合は、ドメイン名(FQDN)を指定して実行します。

```
sh proxypass.sh server.domain.com >> /etc/httpd/conf.d/mod_proxy.conf
```

Web サーバを再起動します

```
systemctl restart httpd
```

※ ProxyPass の設定の追記のみ行っています。Web サーバが正常に起動しない場合は、設定ファイルを確認してください。

※ ホスト名やポートの変更または、VirtualHost で利用する場合は以下を参考に設定してください

(設定例は、サーバの FQDN が server.domain.com ポートが 58080 の場合)

/etc/hosts にサーバ名(FQDN)が設定されていなければ追加してください。

```
127.0.0.1 server.domain.com
```

Web サーバの設定ファイル /etc/httpd/conf.d/mod\_proxy.conf を編集

```
ProxyPass /map http://server.domain.com:58080/map
ProxyPassReverse /map http://server.domain.com:58080/map
```

VirtualHost 利用時

(/etc/httpd/conf/httpd.conf または /etc/httpd/conf.d/以下の設定ファイル)

```
NameVirtualHost *:80
<VirtualHost *:80>
    DocumentRoot /var/www/html/
    ServerName server.domain.com
    ProxyPass /map http://server.domain.com:58080/map
    ProxyPassReverse /map http://server.domain.com:58080/map
</VirtualHost>
```

geoserver/bin/startup.sh の DSTOP.PORT オプションに、Jetty のポート-2 の値を設定

```
exec "$_RUNJAVA" ... -DSTOP.PORT=58078
```

geoserver/bin/shutdown.sh の DSTOP.PORT オプションに、Jetty のポート-2 の値を設定

```
exec "$_RUNJAVA" -DSTOP.PORT=58078
```

geoserver/start.ini 内の jetty.port のポートを変更

```
# HTTP port to listen on
jetty.port=58080
```

webapps/map/WEB-INF/classes/PathInfo.properties 内の SystemProperty のポートを変更

```
LOCAL_ROOT_URL=http://localhost:58080
```

修正後、Web サーバを再起動してください。

### 3.5. HTTPS 運用時の設定

インストール後に、HTTPS 運用に変更する場合は以下の設定を変更後、e コミマップを再起動してください。

ログイン後に表示される URL が http から https に変更されます

webapps/map/WEB-INF/classes/PathInfo.properties

```
PROTOCOL=https
```

SSL の設定は Apache のみで行い、/etc/httpd/conf.d/mod\_proxy.conf に記載されている ProxyPass の URL は http のまま変更しないでください。

### 3.6. (参考情報) e コミマップのインストールをやり直す場合

インストールをやり直したい場合は、作成されたデータベースとファイルを削除してから、再度インストールの手順を実行してください。

## 4. GeoServer の設定変更

この章では、GeoServer を本システムと連携させるための追加設定を行う。

### 4.1. GeoServer の拡張機能 querylayer モジュールの追加

本システムは GeoServer の拡張機能 querylayer モジュールを利用して空間検索を行うため、下記の手順でインストールをする。

GeoServer を停止する。

```
systemctl stop geoserver
```

GeoServer のライブラリディレクトリに移動する。

```
cd /home/geoserver/webapps/geoserver/WEB-INF/lib/
```

拡張機能 querylayer モジュールをダウンロードする。

```
wget -O geoserver-2.28.2-querylayer-plugin.zip ¥  
"https://sourceforge.net/projects/geoserver/files/GeoServer/2.28.2/extensions/geoserver-2.28.2-querylayer-plugin.zip/download"
```

zip ファイルを解凍し、gs-querylayer-2.28.2.jar を取り出す。

```
unzip geoserver-2.28.2-querylayer-plugin.zip
```

zip ファイルは削除しておく。

```
rm -f geoserver-2.28.2-querylayer-plugin.zip
```

GeoServer を起動する。

```
systemctl start geoserver
```

### 4.2. 時系列レイヤの InvalidDimensionValue エラー対策

時系列レイヤの InvalidDimensionValue エラー対策のため、

GeoServer の WMS サービス設定で、

「Dimension Settings」を「Ignore invalid value (legacy)」に設定が必要である。

/home/geoserver/data\_dir/wms.xml の<wms> セクション内で下記設定をすること。

※<exceptionOnInvalidDimension>要素がなければ追加すること。

```
<exceptionOnInvalidDimension>>false</exceptionOnInvalidDimension>
```

## 5. 本システムのインストール

本システムをインストールする手順について下記に記載する。

### 5.1. Web サーバの設定

#### ➤ Web サーバのプロキシ設定追加

Web サーバの設定ファイルを編集し/SaigaiTask を Tomcat にプロキシする設定を追加する。

同時にクロスサイトスクリプティング(XSS)対策のためのヘッダ (X-Content-Type-Options nosniff) も同時に追加する。

#### 標準手順インストール時

/etc/httpd/conf.d/mod\_proxy.conf

```
Header set X-Content-Type-Options nosniff
ProxyPreserveHost On
ProxyPass          /map      http://server.domain.com: 8080/map
retry=5
ProxyPassReverse  /map      http://server.domain.com:8080/map
ProxyPass          /SaigaiTask
http://server.domain.com:8080/SaigaiTask retry=5
ProxyPassReverse  /SaigaiTask
http://server.domain.com:8080/SaigaiTask
```

※複数のドメインを扱う場合は ProxyPreserveHost On の設定をいれることで、リクエストされたドメインのままプロキシすることが可能である。

#### 参考情報 : VirtualHost 利用する場合

※VirtualHost で利用する場合は以下を参考に設定する。

```
NameVirtualHost *:80
<VirtualHost *:80>
    DocumentRoot /var/www/html/
    ServerName server.domain.com
    Header set X-Content-Type-Options nosniff
    ProxyPass          /map      http://server.domain.com: 8080/map
retry=5
    ProxyPassReverse  /map      http://server.domain.com: 8080/map
    ProxyPass          /SaigaiTask
http://server.domain.com:8080/SaigaiTask retry=5
    ProxyPassReverse  /SaigaiTask
http://server.domain.com:8080/SaigaiTask
</VirtualHost>
```

➤ Web サーバのプロキシ動作確認

設定後、httpd を再起動し <http://server.domain.com/SaigaiTask> にアクセスし以下のような Tomcat のエラーが返ってくることを確認する。

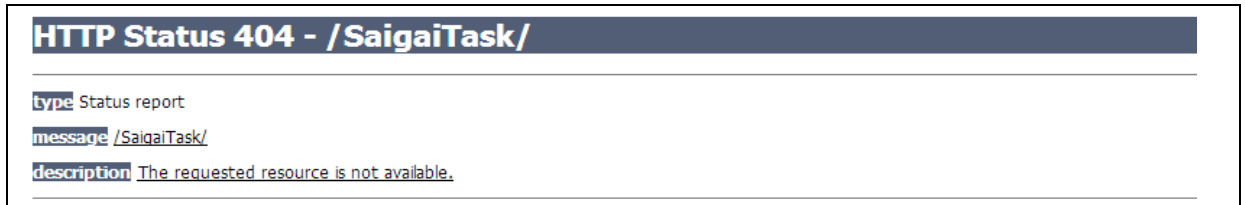


図 4 Tomcat エラー

## 5.2. 本システムパッケージの展開および各種設定

### 5.2.1. Tomcat を停止

展開・設定は Tomcat を停止した状態で行うため、下記のコマンドで停止する。

```
systemctl stop tomcat11
```

### 5.2.1.1. TOMCAT\_HOME を一時的に設定

この手順では Tomcat のインストールディレクトリである /usr/local/apache-tomcat-11 を便宜上 \${TOMCAT\_HOME} と表記している。

手順のコマンドをそのまま実行できるように下記のコマンドで環境変数を一時的に設定する。

```
export TOMCAT_HOME="/usr/local/apache-tomcat-11"
```

### 5.2.2. 本システムパッケージの展開

コンソールで以下を実行し、インストールディレクトリおよび外部からアクセス不可な WEB-INF フォルダを作成する。

```
mkdir -p ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/WEB-INF
```

インストールパッケージの中に含まれているパッケージ (SaigaiTask.zip) を下記のパスに配置する。

```
${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/WEB-INF/SaigaiTask.zip
```

コンソールで以下を実行し、本システムを解凍・展開する。

```
cd ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask  
unzip WEB-INF/SaigaiTask.zip
```

※アップグレードの場合は上書きするか確認されるので、[A]11 を指定してすべて上書きをすることができる。設定ファイルがデフォルトに戻るため、各種設定を再設定すること。

tomcat ユーザに変更する。

```
chown -R tomcat /usr/local/apache-tomcat-11/webapps/SaigaiTask
```

### 5.2.3. データベースの接続設定

本システムが利用するデータベースの設定ファイル SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties が以下のような設定になっているか確認する。必要ならば環境に合わせてデータベース名、ユーザ名、パスワードを適宜修正する。

```
# DATASOURCE (DataSourceAutoConfiguration & DataSourceProperties)  
spring.datasource.driver-class-name=org.postgresql.Driver  
spring.datasource.password=  
spring.datasource.url=jdbc:postgresql://localhost:5432/ecommap_saigaitask  
spring.datasource.username=postgres
```

本システムに組み込まれた e コミマップが利用するデータベースの設定ファイル SaigaiTask/WEB-INF/classes/DataSource.properties が以下のような設定になっているか確認する。必要ならば環境に合わせてデータベース名、ユーザ名、パスワードを適宜修正する。

```
### ecommap DataSource
ServerName=localhost
PortNumber=5432
DatabaseName=ecommap_saigaitask
User=postgres
#Password=
#InitialSize=30
#MaxActive=100
#MaxIdle=30
#MaxWait=5000
```

#### 5.2.4. 気象庁 XML の取得設定

デフォルトでは受信しない設定になっている。

気象庁から XML を受信する場合は、まずは受信サーバを構築する。

構築後、以下の設定を行う。

受信するように SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties を以下のよう  
に修正する。

```
saigaitask.timer.meteoricAlarmService.enable=true
saigaitask.timer.meteoricAlarmService.cron=0 * * * * *
```

※cron 形式で取得間隔を設定可能。例では毎分 0 秒で実行。

受信先のサーバ URL 設定を SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を  
以下のように設定する。

```
METEURL=http://localhost:8080/Meteo/
```

設定は tomcat 再起動後に反映される。

#### 5.2.5. テレメータの受信設定

デフォルトでは受信しない設定になっている。

河川情報センターから配信されるテレメータを受信するには、

SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties を以下のように修正する。

TelemeterService がテレメータを受信するもので、RiskJudgeService が受信データの値によって処理を起動するものである。

```
saigaitask.timer.telemetryService.enable=true
saigaitask.timer.telemetryService.cron=0 * * * * *
saigaitask.timer.riskJudgeService.enable=true
saigaitask.timer.riskJudgeService.cron=30 * * * * *
```

※cron 形式で取得間隔を設定可能。例では毎分 0 秒および毎分 30 秒で実行。

### 5.2.6. J-Alert の受信設定

デフォルトでは受信しない設定になっている。

受信するように SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties を以下のよう  
に修正する。

```
saigaitask.timer.jAlertAlarmService.enable=true
saigaitask.timer.jAlertAlarmService.cron=30 * * * * *
```

※cron 形式で取得間隔を設定可能。例では毎分 30 秒で実行。

### 5.2.7. e コミマップの URL 設定

e コミマップの URL を本システムの設定ファイルに設定する。

**server.domain.com** は e コミマップのサーバ名に適宜読み替えて設定する。

SaigaiTask/WEB-INF/classes/PathInfo.properties を開き、  
e コミマップの起動ポートを指定して、以下のように設定する。

```
LOCAL_ROOT_URL=http://localhost:8080
```

※この設定は本システムから同じ Tomcat 上で動作している e コミマップに HTTP アク  
セスするために必要である。

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下のように設定す  
る。※この設定は、ブラウザ等のユーザが e コミマップと通信する際の URL である。

```
ECOMIMAPURL=http://server.domain.com/
```

※URL の末尾に半角スラッシュが必要

### 5.2.8. e コミマップのディレクトリ設定

e コミマップをインストールしたディレクトリを設定ファイルに設定する。

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下のように設定す  
る。

```
MAPDIR=/usr/local/apache-tomcat-11/webapps/map
```

### 5.2.9. 通知機能の設定

SaigaiTask/WEB-INF/classes/ SaigaiTask.properties を開き、○○○の部分に適  
切な値を設定する。

公共情報コモンズに発信する状況にあわせて設定します。

都道府県の本番環境で運用する時：**act**

ベンダ事業者が開発を行う時：**tdv**

適合検査を受ける時：**ttk**

PCOMMONS\_DOCUMENT\_ID\_HEAD=〇〇〇

公共情報コモンズの本番ノード、及びバックアップノードに対する発信が両方とも失敗した時に、自動的にリトライ発信する回数を設定します。

推奨値：**3**

リトライが不要な時：**0**

PCOMMONS\_RETRY\_COUNT=〇〇〇

公共情報コモンズに通知する組織名と標題に追記する事業者名を設定します。

都道府県の本番環境で運用する時：**空欄または本行を#でコメントにする**

ベンダ事業者が開発を行う時：**当該ベンダ事業者の会社名**

適合検査を受ける時：**空欄または本行を#でコメントにする**

PCOMMONS\_DEVELOP\_CORPNAME=〇〇〇

E コミグループウェアに対する発信が失敗した時に、自動的にリトライ発信する回数を設定します。

推奨値：**3**

リトライが不要な時：**0**

ECOMGW\_RETRY\_COUNT=〇〇〇

外部システムから Twitter に重複した内容を投稿した時に、Twitter が返すエラーコードを設定します。Twitter の仕様変更にあわせて、適切なコードを設定してください。

2015年3月現在の Twitter の仕様に準拠したエラーコード：**187**

TWITTER\_DUPLICATE\_ERROR\_CODE=〇〇〇

外部システムから Facebook に重複した内容を投稿した時に、Facebook が返すエラーコードを設定します。Facebook の仕様変更にあわせて、適切なコードを設定してください。

2015年3月現在の Facebook の仕様に準拠したエラーコード：**506**

FACEBOOK\_DUPLICATE\_ERROR\_CODE=〇〇〇

### 5.2.10. ジオコードの設定

住所検索機能で利用するジオコードを設定ファイルに設定する。

初期状態では設定がコメントアウトされ、ジオコードは利用しない設定となっている。

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定す

る。

```
# choose geocoder: GOOGLE (default unavailable)
#GEOCODER=GOOGLE
```

※Google のジオコーダは、「Google Maps Geocoding API」を利用しますので、下記の利用規約に同意した上で利用してください。

<https://developers.google.com/maps/documentation/geocoding/usage-limits>

Google API キーは e コミマップ管理画面のサーバ設定ページで設定してください。

### 5.2.11.モバイル Push 通知の設定

本システムから被災写真投稿アプリに PUSH 通知する機能を利用する場合に設定する。

- Android 設定

Android 端末への Push 通知は GCM (Google Cloud Messaging) を利用している。

GoogleDevelopersSite にてサーバ API キーを発行し、

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。

```
# Google Cloud Messaging
GOOGLE_API_KEY=サーバ API キー
```

- iOS 設定

iOS 端末への Push 通知は APNs(Apple Push Notification Service)を利用している。

Apple で SSL 証明書を発行し、その秘密鍵ファイル(.p12)と秘密鍵パスワードを、

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。

```
# APNS Certificate file path
APNS_CERTIFICATE_FILE=/秘密鍵ファイル(.p12)
APNS_KEY_PASSWORD=秘密鍵パスワード
```

※秘密鍵ファイル(.p12)は SaigaiTask/classes 配下にコピーしてください。

APNS\_CERTIFICATE\_FILE の設定は、SaigaiTask/classes/からの相対パスを指定してください。

### 5.2.12.クリアリングハウスの設定

本システムと連携するクリアリングハウスを設定する。

クリアリングハウスは標準で使用するものと訓練モードで使用するものの2つを設定できる。訓練モードは設定キーに `_TRAINING` と指定する。

Basic 認証が必要なクリアリングハウスの場合はユーザ名とパスワードを設定する。

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下のよう設定する。

```
CSWURL=http://サーバ名/CatalogueService/servlet/NIEDCatalogueService
```

```

CSWUSER=
CSWPASSWD=
CSWURL_TRAINING=
CSWUSER_TRAINING=
CSWPASSWD_TRAINING=

```

CKAN を利用する場合は、CKAN Action API v3 が利用できる CKAN を別途インストールして下記を指定する。

```

CKAN_URL=http://サーバ名/api/3/action
CKAN_DATASET_URL=http://サーバ名/dataset
CKAN_URL_TRAINING=http://サーバ名/api/3/action
CKAN_DATASET_URL_TRAINING=http://サーバ名/dataset
CKAN_DOWNLOADABLE_FORMATS=OGC
WMS,WMS,XYZ,XYZTILE,GEOJSON,SIP4D_ZIP,SIP4D,SIP4D-ZIP

```

※CKAN\_DATASET\_URL\_TRAINING と CKAN\_DATASET\_URL は省略可能。

### 5.2.13. GeoJSON 取込の設定

JSON 連携で外部の JSON/GeoJSON を登録情報レイヤとして取り込む場合は、SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。

```

#
# JSON import, GeoJSON import/export settings
#
# JSON 連携：サーバが起動してから最初に取得を行うまでの時間（秒）
JSONIMPORT_INITIAL_DELAY=20
# GeoJSON 取込：サーバが起動してから最初に取得を行うまでの時間（秒）
GEOJSONIMPORT_INITIAL_DELAY=25
# GeoJSON 出力：サーバが起動してから最初に出力を行うまでの時間（秒）
GEOJSONEXPORT_INITIAL_DELAY=40
# 共通：ブラウザからエラーチェックのリクエストを行う間隔（秒）
JSONIMPORT_CHECK_INTERVAL=60
# 動的 GeoJSON 取込：サーバが起動してから最初に CKAN のポーリングを行うまでの時間（秒）
CKANPOLLING_INITIAL_DELAY=10
# FTP ポート番号
GEOJSONIMPORT_FTP_PORT=21
# FTPS ポート番号
GEOJSONIMPORT_FTPS_PORT=21
# FTP/FTPS パッシブモード
GEOJSONIMPORT_FTP_PASSIVEMODE=true

```

```
#SIP4D_ZIP_GeoJSON_取得間隔(秒)
SIP4D_ZIP_IMPORT_INTERVAL=1800
#SIP4D_ZIP_CKAN_ポーリング間隔(秒)
SIP4D_ZIP_POLLING_INTERVAL=1800
```

上記取り消し線の設定について、SIP4D アップロード、GeoJSON インポート、CKAN ポーリングを spring のタイマーを使用するように変更した。

SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties を開き、以下の箇所に設定する。必要な場合、true とする。

```
saigaitask.timer.sip4dUploadService.enable=false
saigaitask.timer.sip4dUploadService.cron=23 * * * *
saigaitask.timer.ckanPollingService.enable=false
saigaitask.timer.ckanPollingService.cron=26 * * * *
saigaitask.timer.geojsonImportService.enable=false
saigaitask.timer.geojsonImportService.cron=35 * * * * *
```

HTTP によるダウンロードで BASIC 認証が必要な場合は、

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。対象のコメントアウトは外す。

```
# GEOJSON インポート
# BASIC 認証 ([ユーザ名]:[パスワード]@[URL の先頭部分],... の形式で複数指定可能)
#GEOJSON_IMPORT_BASICAUTH=test:test@https://xxx.yyy/
```

以下の形式です。

[ユーザ名]:[パスワード]@[URL の先頭部分],...

[URL の先頭部分] は任意の長さで指定する (途中で切ってもよい)。

, (カンマ) で区切って複数の指定を書くことができ、最初に一致したものが有効になる。

FTP によるダウンロードで認証が必要な場合は、

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。対象のコメントアウトは外す。

```
# GEOJSON インポート
# GEOJSON_IMPORT_FTPUSERPASSWORD=test:test@ftp://xxx.yyy
```

以下の形式です。

[ユーザ名]:[パスワード]@[URL の先頭部分],...

[URL の先頭部分] は任意の長さで指定する (途中で切ってもよい)。

, (カンマ) で区切って複数の指定を書くことができ、最初に一致したものが有効になる。

SFTP によるダウンロードで認証が必要な場合は、

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。対象のコメントアウトは外す。

```
# GEOJSON インポート
# GEOJSON_IMPORT_SFTPUSER =test:test@ftp://xxx.yyy
# GEOJSON_IMPORT_PRIVATEKEYFILE= [プライベートキーファイル]
```

以下の形式です。

[ユーザ名]:[パスワード]@[URL の先頭部分],...

[URL の先頭部分] は任意の長さで指定する (途中で切ってもよい)。

, (カンマ) で区切って複数の指定を書くことができ、最初に一致したものが有効になる。

GEOJSON\_IMPORT\_PRIVATEKEYFILE には秘密鍵の場所を設定する。

ラスター版 SIP4D-ZIP のダウンロードで自治体ごとに指定する場合は、  
SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。対象のコメントアウトは外す。

```
# GEOJSON インポート
# BASIC 認証 ([ユーザ名]:[パスワード]@[URL の先頭部分],... の形式で複数指定可能)
#GEOJSON_IMPORT_BASICAUTH=test:test@https://xxx.yyy/
# GEOJSON_IMPORT_FTPUSERPASSWORD=test:test@ftp://xxx.yyy
# GEOJSON_IMPORT_SFTPUSER =test:test@ftp://xxx.yyy
# GEOJSON_IMPORT_PRIVATEKEYFILE= [プライベートキーファイル]
```

以下の形式のように先頭に自治体 ID と.(ドット)を先頭につけることで自治体別に設定する。

```
[自治体 ID].GEOJSON_IMPORT_FTPUSERPASSWORD=...
[自治体 ID].GEOJSON_IMPORT_SFTPUSER=...
[自治体 ID].GEOJSON_IMPORT_PRIVATEKEYFILE=...
```

SIP4D-ZIP の取得でレイヤを作成するマップを指定する場合は、  
SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。対象のコメントアウトは外す。

```
# SIP4D 取得マップ ID
#SIP4D_IMPORT_MAP_ID=
```

※省略時はマスタマップにレイヤが作成される。

#### 5.2.14.SIP4D アップロードの設定

アップロードする SIP4D-ZIP のメタデータ情報は、  
SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。  
対象のコメントアウトは外す。

```
# SIP4D アップロード
# メタデータの "version" (固定値)
SIP4D_UPLOAD_VERSION=1
# メタデータの "author" (新規追加時の初期値、画面より変更可)
#SIP4D_UPLOAD_AUTHORNAME=防災科学技術研究所
# メタデータの "e-mail" (新規追加時の初期値、画面より変更可)
#SIP4D_UPLOAD_AUTHOREMAIL=xxx@xxx.xxx.jp
# FTP 転送モード (true: パッシブモード/ false: アクティブモード)
SIP4D_UPLOAD_FTP_PASSIVEMODE=false
```

### 5.2.15. GeoTIFF 地図追加機能の設定

地図画面の地図追加ボタンから GeoTIFF ファイルをアップロードして地図表示する機能の設定を SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties で行う。

地図画面の地図追加ボタンで GeoTIFF アップロード機能を有効化する場合は true false にすると、地図追加ボタンで GeoTIFF タブが非表示となる。

(コメントアウト時は true)

```
#GEOTIFF_ADDMAP=true
```

GeoTIFF ファイルから XYZ タイルを生成する際の出力先 (ベースディレクトリ) を指定する。

Apache の httpd のドキュメントルート配下のディレクトリを設定する。

(コメントアウト時のデフォルトは「/var/www/html/xyz/geotiffayer」)

※GEOTIFF\_XYZ\_DIR/<GeoTIFF レイヤ情報 ID>/\${z}/\${x}/\${y}.png にタイルが出力される。

```
## GEOTIFF_XYZ_DIR: XYZ Tile Root directory.
#GEOTIFF_XYZ_DIR=/var/www/html/xyz/geotiffayer
```

ディレクトリは事前に作成し、tomcat ユーザに変更しておくこと。

```
mkdir -p /var/www/html/xyz/geotiffayer
chown tomcat /var/www/html/xyz/geotiffayer
```

GEOTIFF\_XYZ\_URL は、XYZ タイルのベース URL を指定する。

(コメントアウト時のデフォルトは、ECOMIMAPURL+'xyz/geotiffayer')

※XYZ URL は「GEOTIFF\_XYZ\_URL/<GeoTIFF レイヤ情報 ID>/\${z}/\${x}/\${y}.png」となる。

```
## GEOTIFF_XYZ_URL: XYZ Tile Root URL.
## default: ECOMIMAPURL+'xyz/geotiffayer'
#GEOTIFF_XYZ_URL=https://example.com/xyz/geotiffayer
```

GEOTIFF\_XYZTILE\_PROCESSES は、XYZ タイル生成処理(gdal2tiles.py)の並列プロセス数を指定する。

(コメントアウト時のデフォルトは CPU の半分 (CPU8 コアの場合は 4))

```
## GEOTIFF_XYZTILE_PROCESSES: gdal2tiles.py Number of parallel processes to use for
tiling, to speed-up the computation.
## default: half of CPU
#GEOTIFF_XYZTILE_PROCESSES=
```

GEOTIFF\_GDAL2TILES は、gdal2tiles.py コマンドのパスを指定する。

```
#GEOTIFF_GDAL2TILES=gdal2tiles.py
```

※ 「2.2.7 gdal2tiles のインストール」にてインストールしたパスを設定すること。

例) インストールパス /usr/gdal312/bin/gdal2tiles.py の場合は、下記を設定する。  
 GEOTIFF\_GDAL2TILES=/usr/gdal312/bin/gdal2tiles.py

### 5.2.16.SIP4D-ZIP(payload\_type=MAP)取込の設定

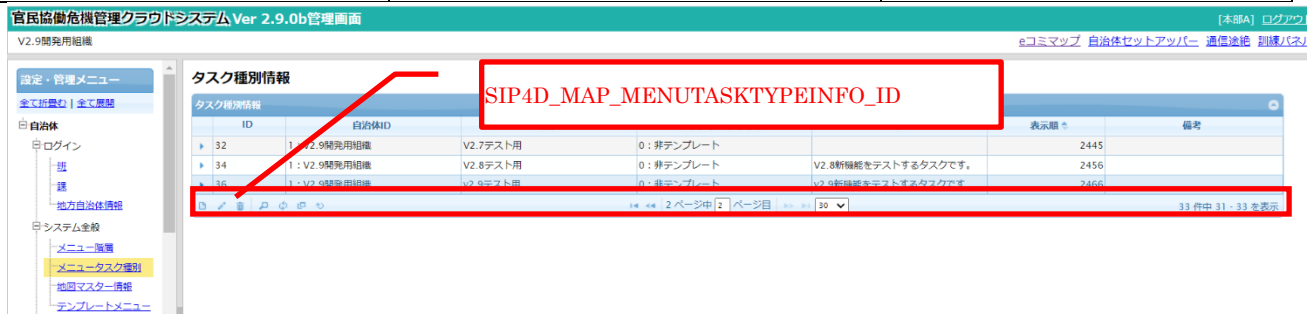
地図追加機能により CKAN 登録済みの SIP4D-ZIP(payload\_type=MAP)あるいは SIP4D-ZIP-MAP を取り込む場合は、

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。

SIP4D_MAP_MENUTASKTYPEINFO_ID=36
SIP4D_MAP_MENUTASKINFO_ID=343
SIP4D_MAP_DEFAULT_BASE_LAYER_URL=https://cyberjapandata.gsi.go.jp/xyz/blank/{z}/{x}/{y}.png
CKAN_DOWNLOADABLE_FORMATS=OGC
WMS,WMS,XYZ,XYZTILE,GEOJSON,SIP4D_ZIP,SIP4D-ZIP,SIP4D,SIP4D-ZIP-MAP

表 5.3.17.1 SaigaiTask.properties の設定

説明	キー	値 (例)
menu_info を追加する menutasktype_info の id	SIP4D_MAP_MENUTASKTYPEINFO_ID	36 下図メニュータスク種別情報図参照のこと
menutaskmenu_info を追加する menutask_info の id	SIP4D_MAP_MENUTASKINFO_ID	343 下図メニュータスク情報図参照のこと
デフォルトの背景地図	SIP4D_MAP_DEFAULT_BASE_LAYER_URL	basemap が存在しない場合に参照する。例) https://cyberjapandata.gsi.go.jp/xyz/blank/{z}/{x}/{y}.png
CKAN ダウンロード対象の format	CKAN_DOWNLOADABLE_FORMATS	OGC WMS,WMS,XYZ,GEOJSON, SIP4D-ZIP,SIP4D-ZIP-MAP,SIP4D-IMAGE ※SIP4D-ZIP-MAP を追加する。



メニュータスク種別情報図



メニュータスク情報図

### 5.2.1. X-ICS 同期処理の設定

本システムで X-ICS を用いたデータ同期機能を有効にする場合は以下設定を行う。

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する

```
## 位置情報送信
# 最少送信間隔 (秒)
DEVICELLOCATION_MIN_IINTERVAL=1
# 最大送信間隔 (秒)
DEVICELLOCATION_MAX_IINTERVAL=600
# 最少移動距離 (m)
DEVICELLOCATION_MIN_DISTANCE=10.0
# アラート禁止時間 (秒)
DEVICELLOCATION_ALERT_INHIBIT_PERIOD=300
# 以下の時間 (秒) 受信がない場合に削除扱いとする
DEVICELLOCATION_RECEIVE_TIMEOUT=1800
# X-ICS アラートメッセージの有効時間 (秒)
DEVICELLOCATION_ALERTMSG_DURATION=60
# X-ICS アラートメッセージの最少更新間隔 (秒)
DEVICELLOCATION_ALERTMAG_MIN_INTERVAL=50
# X-ICS テーブルの更新を行う
DEVICELLOCATION_XICS_UPDATE=true
# X-ICS より 1 回で取得する最大レコード数
DEVICELLOCATION_MAX_RECORDS=1000
# ダイアログの背景色
DEVICELLOCATION_DIALOG_RED=#fca7a7
DEVICELLOCATION_DIALOG_YELLOW=#ffff94
DEVICELLOCATION_DIALOG_BLUE=#9df9fc
# ダイアログのフォントサイズ
DEVICELLOCATION_FONTSIZE_L=32
DEVICELLOCATION_FONTSIZE_M=24
DEVICELLOCATION_FONTSIZE_S=16
# アラート音ファイル
DEVICELLOCATION_ALERT_SOUND=/images/alert.mp3
# 端末位置レイヤ属性 ID 定義
DEVICELLOCATION_ATTR_DEVICE_ID=attr1
DEVICELLOCATION_ATTR_USER=device_attr0
DEVICELLOCATION_ATTR_GROUP_NAME=group_name
DEVICELLOCATION_ATTR_ORGANIZATION=attr2
DEVICELLOCATION_ATTR_LOCAL_FLAG=attr3
```

```

DEVICELLOCATION_ATTR_MOVE_BY=attr4
# アラート範囲レイヤ属性 ID 定義
DEVICELLOCATION_ATTR_TITLE=attr0
DEVICELLOCATION_ATTR_MESSAGE=attr1
DEVICELLOCATION_ATTR_ALERT_LEVEL=attr2
DEVICELLOCATION_ATTR_SIZE=attr3
DEVICELLOCATION_ATTR_BELL=attr4
DEVICELLOCATION_ATTR_URL=attr5
# 更新日時を DB に保存する期間 (日)
XICS_PRESERVATION_PERIOD = 20

# X-ICS
# WebAPI UnixDomainSocket path
XICS_UNIXDOMAINSOCKET_PATH=/opt/sip4d/tmp/webapi-hearsay
# WebAPI URL
XICS_URL_BASE=/nervenet/dbsync/v1/
# WebAPI Socket timeout ms
XICS_READ_TIMEOUT_MS=5000
# WebAPI Attache file save directory
XICS_ATTACHEFILE_PATH=/opt/sip4d/hearsay/sip4d
# XICS_CONF_PATH
XICS_CONF_PATH=/opt/sip4d/personal/sip4d-portable.conf

# μSIP4D-ZIP
# 一時出力先
MICRO_SIP4D_TEMP_EXPORT_PATH=/tmp/
# 一時出力ファイルの削除
MICRO_SIP4D_TEMP_DELETE=true

# 移動方法
MOVEBY_OPTIONS=移動しない,セミトレ,大型車,中型車,小型車,バイク,徒歩
    
```

表 5.3.18.1 SaigaiTask.properties の設定

説明	キー	値 (例)
端末位置送信間隔 (秒)	DEVICELLOCATION_MIN_IINTERVAL	1
位置に変化がない場合、この秒数後に端末位置を送信する	DEVICELLOCATION_MAX_IINTERVAL	600
前回の端末位置からここで指定した距離を超えて移動していた場合端末位置を送信する。単位はメートル	DEVICELLOCATION_MIN_DISTANCE	10.0
前回のアラート発報後、この秒数以内であれば発報しない	DEVICELLOCATION_ALERT_INHIBIT_PERIOD	300
この秒数を経過後も端末位置が送信されなかった端末は削除扱いとなる	DEVICELLOCATION_RECEIVE_TIMEOUT	1800
X-ICS から取得したアラートメッセージの有効期間	DEVICELLOCATION_ALERTMSG_DURATION	60
X-ICS アラートメッセージテーブルへの書き込み時に同一デバイス ID・同エリア ID へのメッセージはここで指定した秒数間は書き込まれない	DEVICELLOCATION_ALERTMAG_MIN_INTERVAL	50
X-ICS テーブル使用有無フラ	DEVICELLOCATION_XICS_UPDA	true

グ このプロパティが true か つ 、 XICS_UNIXDOMAINSOCK ET_PATH に正しいパスが記 載されている場合は X-ICS を使用する	TE	
X-ICS より 1 回で取得する最大レ コード数	DEVICELOCATION_MAX_RECORDS	1000
アラートポップアップの背景 色 (アラートレベル=RED)	DEVICELOCATION_DIALOG_RE D	#fca7a7
アラートポップアップの背景 色 (アラートレベル =YELLOW)	DEVICELOCATION_DIALOG_YE LLOW	#ffff94
アラートポップアップの背景 色 (アラートレベル =INFO)	DEVICELOCATION_DIALOG_BL UE	#9df9fc
アラートポップアップのフォ ントサイズ (文字サイズ= 大)	DEVICELOCATION_FONTSIZE_ L	32
アラートポップアップのフォ ントサイズ (文字サイズ= 中)	DEVICELOCATION_FONTSIZE_ M	24
アラートポップアップのフォ ントサイズ (文字サイズ= 小)	DEVICELOCATION_FONTSIZE_S	16
アラートポップアップのアラ ート音ファイル	DEVICELOCATION_ALERT_SOU ND	/images/alert.mp3
端末位置情報レイヤのデバイ ス ID 属性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_DEVI CE_ID	attr1
端末位置情報レイヤの使用 者属性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_USER	attr0
端末位置情報レイヤのグル ープ名属性 ID (未使用)	DEVICELOCATION_ATTR_GROU P_NAME	group_name 本プロパティは未使用
端末位置情報レイヤの組織属 性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_ORGA NIZATION	attr2
端末位置情報レイヤのローカ ルフラグ属性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_LOCAL_F LAG	attr3
端末位置情報レイヤの移動方 法属性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_MOVE_B Y	attr4
アラート範囲レイヤのタイト ル属性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_TITLE	attr0
アラート範囲レイヤのメッセ ージ属性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_MESS AGE	attr1
アラート範囲レイヤのアラ ートレベル属性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_ALER T_LEVEL	atr2
アラート範囲レイヤの文字サ イズ属性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_SIZE	attr3
アラート範囲レイヤの警告音 属性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_BELL	attr4

5. 本システムのインストール

アラート範囲レイヤの URL 属性 ID	DEVICELOCATION_ATTR_URL	attr5
取込済み更新日時を DB に保存する期間 (日)	XICS_PRESERVATION_PERIOD	20
X-ICS Unix ドメインソケットのパス このプロパティのパスが存在し、 DEVICELOCATION_XICS_UPDATE が true の場合に X-ICS を使用する	XICS_UNIXDOMAINSOCKET_PATH	/opt/sip4d/tmp/webapi-hearsay
X-ICS API URL パスのプレフィックス	XICS_URL_BASE	/nervenet/dbsync/v1/
X-ICS 接続タイムアウト ミリ秒	XICS_READ_TIMEOUT_MS	5000
X-ICS 添付ファイル保存パス	XICS_ATTACHFILE_PATH	/opt/sip4d/hearsay/sip4d
X-ICS 設定ファイルパス ノード ID をここから取得する	<u>XICS_CONF_PATH</u>	/opt/sip4d/personal/sip4d-portable.conf
μSIP4D-ZIP の一時出力先パス	MICRO_SIP4D_TEMP_EXPORT_PATH	/tmp/
true の場合は MICRO_SIP4D_TEMP_EXPORT_PATH に出力したファイルを処理完了後に削除	MICRO_SIP4D_TEMP_DELETE	true
ログイン画面に表示する移動方法の選択肢	MOVEBY_OPTIONS	移動しない,セミトレ,大型車,中型車,小型車,バイク,徒歩

端末位置情報を X-ICS から取り込む場合は

SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties を開き、以下のように修正する。

```
saigaitask.timer.deviceLocationXicsService.enable=true
saigaitask.timer.deviceLocationXicsService.cron=*/5 * * * * *
```

地物の地理空間情報を X-ICS から取り込む場合は

SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties を開き、以下のように修正する。

```
saigaitask.timer.geospatialXicsService.enable=true
saigaitask.timer.geospatialXicsService.cron=*/5 * * * * *
```

端末位置情報中の地物とアラート範囲レイヤの空間検索を行い、結果を X-ICS のアラートメッセージテーブルに配信する場合は

SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties を開き、以下のように修正する。

```
saigaitask.timer.alertMessageXicsService.enable=true
```

saigaitask.timer.alertMessageXicsService.cron=\*/5 \* \* \* \* \*

## 管理画面設定

端末位置情報レイヤはテーブルマスタ情報の「端末位置」を true に設定

編集 - テーブルマスタ情報

ID 72  
地図マスタ情報ID(\*) 2

レイヤID c58 🔍 検索

テーブル名ID(\*) c58 🔍 検索

訓練レイヤID c78 🔍 検索

訓練テーブル名 c78 🔍 検索

名称(\*) 端末位置 🔍 検索

シオメトリのタイプ POINT 🔍 検索

住所項目名 🔍 検索

更新日時項目名 🔍 検索

座標表示項目名 🔍 検索

管理番号項目名 🔍 検索

入力者項目名 🔍 検索

MRGSグリッド項目名

MRGS桁数(\*) 4

更新通知時間(分) 60

コピー方法(\*) 最新データのみ複製 (履歴なし) ▼

リセットフラグ(\*) false ▼

バージョン(\*)

**アラート範囲(\*) false ▼**

端末位置(\*) true ▼

軌跡レイヤ(\*) false ▼

備考

保存 キャンセル

アラート範囲レイヤはテーブルマスタ情報の「アラート範囲」を true に設定

編集 - テーブルマスタ情報

ID 74  
地図マスタ情報ID(\*) 2

レイヤID c60 🔍 検索

テーブル名ID(\*) c60 🔍 検索

訓練レイヤID c81 🔍 検索

訓練テーブル名 c81 🔍 検索

名称(\*) アラート範囲 🔍 検索

シオメトリのタイプ POLYGON 🔍 検索

住所項目名 🔍 検索

更新日時項目名 🔍 検索

座標表示項目名 🔍 検索

管理番号項目名 🔍 検索

入力者項目名 🔍 検索

MRGSグリッド項目名

MRGS桁数(\*) 4

更新通知時間(分) 60

コピー方法(\*) 最新データのみ複製 (履歴なし) ▼

リセットフラグ(\*) false ▼

バージョン(\*) true ▼

**アラート範囲(\*) true ▼**

端末位置(\*) false ▼

軌跡レイヤ(\*) false ▼

備考

保存 キャンセル

地物の地理空間情報の同期を行うレイヤは、地方自治体情報の SIP4D-ZIP Version を 1.1 とし、JSON 連携 > SIP4D アップロード設定 > X-ICS 同期用 μSIP4D-ZIP 情報 v1.1 にレコー

ドを作成する

地方自治体情報

地方自治体情報																											
ID	自治体ID	システム名	地方自治体	都道府県名	県名(旧県名)	県コード	市区町村	市区町村コ	サイトコード	組織種別	予備	自動発報フ	自動発報時	アラームの	SMTTPサー	送信用メー	応答10送	言語コード	ロゴ画像フ	会議録保存	SIP4D-ZIP	SIP4D-ZIP	SIP4D-ZIP	Ver:	備考	有効・無効	
3	sip4dv210-1	SIP4D-Xe69j3	その他	警察	02				MPD	警察		false	4	HQ-P	120	test@test.cc	無効	2	JA	一覧				1.1			有効

SIP4Dアップロード設定																								
ID	自治体ID	プロトコル	SFTP送信先	SFTPユーザ	SFTPポート	SFTPディレ	定期応答デ	SFTPプロパ	URL	ユーザ名	パスワード	ファイルデ	提供元ユー	実行期間(毎)	バックタ	作成者名	作成者のe-	メンテナ	メンテナ	公開フラグ	ライセンス	検索タグ	データ内容	有効・無効
2	3	警察	FTP	VECTOR					ftp://192.11	ftpuser	Gp900hjk	/root/work/052	3600		ベクター	警察				災害対応編成	cc-by			有効

SIP4D情報種別情報 v1.1																						
ID	SIP4Dアップ	テーブルマス	メタデータの	エントリタイ	情報種別コ	防災情報のカ	地理空間デー	作成者名	作成者のe-m	メンテナ	メンテナ	公開フラグ	ライセンスID	検索タグ	データ利用	ライセンスID	クレジットタ	データ内容	検索条件	地物属性更新	有効・無効	
4	2	02	被害 (道)	test	test	0304-01	交通	VECTOR	test	test	test@test.com	一般公開可能	cc-zero	test				test				有効
5	2	03	被害 (宅)	test	test	0304-02	その他	VECTOR	test	test	test@test.com	一般公開可能	cc-zero	test				test				有効
6	2	04	捜索・救助	test	test	9999-01	人的被害	VECTOR	test	test	test@test.com	一般公開可能	cc-zero	test				test				有効

**編集 - X-ICS同期用μSIP4D-ZIP情報 v1.1**

ID: 4

SIP4Dアップロード情報(\*): 2

テーブルID(\*): 02: 被害 (道路)

メタデータのタイトル(\*): test

エントリタイトル(\*): test

情報種別コード(\*): 0304-01

防災情報のカテゴリ(\*): 交通

地理空間データ形式(\*): VECTOR

作成者名(\*): test

作成者のe-mailアドレス:

メンテナ名(\*): test

メンテナのe-mailアドレス(\*): test@test.com

公開フラグ(\*): 一般公開可能

ライセンスID(\*): cc-zero

検索タグ(\*): test

データを利用する際の注意事項:

ライセンスに関する記載:

クレジットタイトル:

データ内容の記述(\*): test

検索条件:

地物属性更新時刻付加(X-ICS):

非公開情報を含む(X-ICS)(\*): 有効

属性定義ファイル: {"code": "0304-01",

ファイルの選択: ファイルが選択されていません

自動作成    ダウンロード

保存    キャンセル

### 5.2.2. 公開ビューの公開フラグ表示名の設定

公開ビューを作成すると公開チェックボックスで公開・非公開を制御できる。この公開チェックボックスの表示名を変更したい場合は、下記の設定を行うこと。

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。

```
# Public Attr Name
#PUBLIC_ATTR_NAME_en=Public
#PUBLIC_ATTR_NAME_ja=¥u516c¥u958b
#PUBLIC_ATTR_NAME_FOR_LIST_en=Public
#PUBLIC_ATTR_NAME_FOR_LIST_ja=¥u516c¥u958b
```

※デフォルトは「公開」(Public) で、上記の通りコメントアウトされている。

※言語を英語・日本語のほかに追加している場合は、PUBLIC\_ATTR\_NAME\_<言語コード>の形式で設定すること。

※本システムのみ公開フラグの表示名が変更される。(e コミマップ上は「公開」固定)

※リスト画面の一覧の項目名を変更したい場合は PUBLIC\_ATTR\_NAME\_FOR\_LIST で指定すること。

例えば、

- ・「防災関係機関へ共有」(Share with relevant organizations)
- ・一覧のみ「共有」(Share)

に変更したい場合は、下記のように設定する。

```
# Public Attr Name
PUBLIC_ATTR_NAME_en=Share with relevant organizations
PUBLIC_ATTR_NAME_ja=¥u9632¥u707d¥u95a2¥u4fc2¥u6a5f¥u95a2¥u3078¥u5171¥u6709
PUBLIC_ATTR_NAME_FOR_LIST_en=Share
PUBLIC_ATTR_NAME_FOR_LIST_ja=¥u5171¥u6709
```

設定ファイルでは日本語は Unicode に変換して設定する。

変換コマンド例

```
echo "防災関係機関へ共有" | /usr/java/default/bin/native2ascii /dev/stdin
```

### 5.2.3. 市民向け簡単入力スマホサイトの設定

市民向け簡単入力スマホサイト (<https://~/~/SaigaiTask/sp2>) を有効にする場合は、別途作成した課 (ユニット) ユーザ情報、および、メニュー情報に従って下記の設定を行うこと。

管理画面設定

市民向け簡単入力スマホサイト用の課 (ユニット) ユーザ作成例

5. 本システムのインストール

編集・ユニット情報

ID 238

自治体ID(\*) 279: 実動機関R7

ユニット名(\*) easysp

ログインパスワード(\*)

eコママップのアカウント(\*) nied\_admin

管理権限(\*) false

ホーム (WKT) POLYGON((130.453842 3: [地図へ](#))

解像度 (デフォルト0) (目安) 指定なし

代表電話番号

FAX番号

メールアドレス

APIキー 2107d91f-5934-44df-abe8-78e8da483015  再発行  削除

検索文字列

ロゴ画像ファイル

ロゴ画像ファイルアップロード [ファイルの選択](#) ファイルが選択されていません

備考

表示順(\*) 10

有効・無効(\*) 有効

[保存](#) [キャンセル](#)

タスク・メニュー設定例

ID	タスク種別	メニュータイプ	名称	オンラインヘルプ	マルチ表示	表示・非表示	備考	有効・無効
85404	14006: 市民向けスマホサ4: 地図 (リスト無)	救助			false	true		有効
85405	14006: 市民向けスマホサ4: 地図 (リスト無)	物資			false	true		有効
85406	14006: 市民向けスマホサ4: 地図 (リスト無)	その他			false	true		有効
85407	14006: 市民向けスマホサ4: 地図 (リスト無)	全て			false	true		有効

「救助」メニュー設定例

ID	タスク種別	メニュータイプ	名称	オンラインヘルプ	マルチ表示	表示・非表示	備考	有効・無効
85404	14006: 市民向けスマホサ4: 地図 (リスト無)	救助			false	true		有効

ID	メニューID	テーブルID	追加フラグ	削除フラグ	合計フラグ	表示順	アコーディ:	名称	アコーディ:	アコーディ:	名称	アコーディ:	アコーディ:	名称	アコーディ:	遷移先文字
48467	85404: 救助	23357: 救助	true			true		救助	true							

ID	メニューID	レイヤID	初期表示フラグ	検索フラグ	有効・無効	表示順
229640	85404: 救助	wm528231	false		有効	10

「全て」メニュー設定例

The screenshot shows a web application configuration interface with several sections:

- メニューテーブル情報**: A table with columns for ID, Menu ID, Table ID, Add Flag, Delete Flag, Count Flag, Display Order, Code, Name, and Transfer Prefix. It includes pagination controls (0-30 pages).
- フィルター情報**: A table with columns for ID, Menu ID, Name, Filter ID, Remarks, and Active/Inactive. It includes pagination controls (0-30 pages).
- ページボタン表示情報**: A table with columns for ID, Menu ID, Page Button ID, Link, Target Name, and Usage Flag. It includes pagination controls (0-30 pages).
- 地図レイヤ情報**: A table with columns for ID, Menu ID, Table Master, Initial Display Flag, Default Zoom, Edit Flag, Add Flag, Search Flag, Snap Flag, Cutout Layer, Style ID, Active/Inactive, and Display Order. It shows three records for menu ID 85407.
- 地図KMLレイヤ情報**: A table with columns for ID, Menu ID, Layer ID, Initial Display Flag, Search Flag, and Active/Inactive. It includes pagination controls (0-30 pages).
- 地図参照レイヤ情報**: A table with columns for ID, Menu ID, Layer ID, Initial Display Flag, Default Zoom, Search Flag, and Transparency. It includes pagination controls (0-30 pages).
- 地図ベースレイヤ情報**: A table with columns for ID, Menu ID, Layer ID, Initial Display Flag, and Active/Inactive. It shows one record for menu ID 85407.

SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties を開き、以下の箇所に設定する。

```
# 簡易スマホサイト
SP2_LOGIN_NAME=easysp
SP2_LOGIN_PASSWORD=password
SP2_MENUID_KYUUJO=85404
SP2_MENUID_BUSSI=85405
SP2_MENUID_SONOTA=85406
SP2_MENUID_ALL=85407
```

説明	キー	値 (例)
ユニット名	SP2_LOGIN_NAME	easysp
ログインパスワード	SP2_LOGIN_PASSWORD	password
「救助」メニュー情報 ID	SP2_MENUID_KYUUJO	
「物資」メニュー情報 ID	SP2_MENUID_BUSSI	
「その他」メニュー情報 ID	SP2_MENUID_SONOTA	
「全て」メニュー情報 ID	SP2_MENUID_ALL	

#### 5.2.4. SOBO-WEB 接続（送受信）設定

デフォルトでは送受信しない設定になっている。

送信するように SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties を以下のよう修正する。

```
saigaitask.timer.soboExportService.enable=true
saigaitask.timer.soboExportService.cron=40 * * * * *
```

※cron形式で取得間隔を設定可能。例では毎分40秒で実行。

Atom フィード情報のポーリング、及び、取込済地図の更新をするには、SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties を以下のように設定する。

```
saigaitask.timer.soboPollingService.enable=true
saigaitask.timer.soboPollingService.cron=27 * * * * *
saigaitask.timer.soboImportService.enable=true
saigaitask.timer.soboImportService.cron=36 * * * * *
```

※cron 形式で取得間隔を設定可能。例では毎分 27 秒と 36 秒で実行。

設定は tomcat 再起動後に反映される。

### 5.3. 本システムを Tomcat に配備

本システムを Tomcat にデプロイするためのコンテキスト定義を作成する。

#### 5.3.1. Tomcat コンテキスト定義の作成

テンプレートをコピーしてコンテキスト定義ファイルを作成する。

```
cp ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/META-INF/context.xml
${TOMCAT_HOME}/conf/Catalina/localhost/SaigaiTask.xml
```

## 5.4. 本システムの起動

コンソールから、Tomcat を起動する。

```
systemctl start tomcat11
```

初回起動時およびアップグレード時はデータベースの更新処理が実行されるため、ログファイルに下記のような DB 更新に関するメッセージが表示される。

```
`${TOMCAT_HOME}/logs/catalina.out
```

```
INFO Database: jdbc:postgresql://localhost:5432/ecommap_saigaitask (PostgreSQL 16.4)
INFO Creating Metadata table: "public"."schema_version"
INFO Schema baselined with version: 0
INFO Current version of schema "public": 0
WARN outOfOrder mode is active. Migration of schema "public" may not be reproducible.
INFO Migrating schema "public" to version 1 - Base 20140331
INFO Migrating schema "public" to version 1.1.1 - Add disastersummary
<中略>
INFO Migrating schema "public" to version "2.9.15 - Add multilangmes"
INFO Successfully applied 213 migrations to schema "public", now at version v2.9.15 (execution time 00:10.678s).
```

Migrating schema "public" to Version 1 というログから始まり、  
`\${TOMCAT\_HOME}/webapps/SaigaiTask/WEB-INF/classes/data/sql/  
にある SQL ファイルが順番に実行されていき、

Successfully applied XXX migrations to schema "public"  
というログが出れば、データベースの接続および更新処理は成功している。

再起動後、以下の URL にアクセスして、ログイン画面が表示されれば、インストールは完了である。<http://サーバ名/SaigaiTask>

図 5 ログイン画面

## 5.5. 自治体の作成

本システムのインストール直後はユーザ情報、自治体情報が未登録の状態の為、登録を行う必要がある。管理画面のログイン画面「<http://サーバ名/SaigaiTask/admin>」でシステム管理者のユーザによりログインする。（システム管理者(班名:admin)のパスワードはデフォルトで admin が設定されている。）

自治体セットアップのリンクを開いて「自治体作成画面」を表示する。システム設定、自治体情報、管理班情報の入力については以下の説明を参照して入力する。推奨設定をベースに自治体を作成する場合は「設定のインポート」を設定する。

**自治体作成画面**

『自治体セットアップ』で登録される設定は、全て『管理画面』から修正することができます。

システム設定	
システム名称	<input type="text" value="SIP4D-Xedge"/>
ドメイン名	<input type="text" value="cityname.bosai-cloud.jp"/>
アラーム確認の間隔(秒)	<input type="text" value="120"/> <small>(この間隔でブラウザがサーバにアラームの有無を確認します)</small>

自治体情報	
自治体種別	<input type="radio"/> 県 <input checked="" type="radio"/> 市区町村 <input type="radio"/> その他
県名	<input type="text"/>
県コード	<input type="text"/> (地方公共団体コード 2桁)
市区町村名	<input type="text"/>
市区町村コード	<input type="text"/> (地方公共団体コード 3桁)
備考	<div style="border: 1px solid #ccc; height: 40px;"></div>

設定のインポート	
インポート方法	<input checked="" type="radio"/> インポートしない <input type="radio"/> 自治体設定とマスタマップのインポート <input type="radio"/> 自治体設定とマスタマップのインポートと、システムマスタの入れ替え <small>※システムマスタの入れ替えは、自治体を全て削除すると選択できます。</small>
パスワード	<input type="text"/> インポートで作成される『班』と『課』に対してパスワードを初期設定します。
eコママップユーザアカウント	<input type="text"/> インポートで作成される『班』と『課』に対してeコママップユーザアカウントを初期設定します。
設定テンプレート	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <input type="button" value="アップロード"/> <input type="button" value="アップロード済みの設定テンプレート"/> </div> <small>システムバージョン:</small> <input type="button" value="ファイルを選択"/> <small>選択されていません</small> <input checked="" type="radio"/> 同一のUUIDで復元する <input type="radio"/> 新たなUUIDを発行する
マスタマップの復元先	<input checked="" type="radio"/> 新規作成 <input type="radio"/> 選択 サイト名称: <input type="text"/>

図 6 自治体セットアップ「自治体作成画面」

下記項目を入力し、「登録」ボタンを押下する事により本システムに登録を行う。

表 4 簡易セットアップ画面の各名称と概要及び入力例

番号	名称	概要	設定例
システム設定			
①	システム名称	本システムの名称を変更する場合は設定する。	
②	ドメイン名	本システムの対象自治体のドメインを設定する。	cityname.bo sai-cloud.jp
③	アラーム確認の間隔 (秒)	対象自治体サイトがアラームの有無を確認する周期を設定する。	60
自治体情報			
④	自治体種別	対象自治体の分類をドロップダウンリストから選択する。	市区町村
⑤	県名	対象自治体が所属する県の名称を設定する。	〇〇県
⑥	県コード	対象自治体が所属する県を地方公共団体コード2桁で設定する。	99
⑦	市区町村名	対象自治体が所属する市区町村の名称を設定する。	〇〇市
⑧	市区町村コード	対象自治体が所属する市区町村を地方公共団体コード3桁で設定する。	999
⑨	備考	備考欄。	-
設定のインポート			
⑩	インポート方法	初期状態では『インポートしない』が選択されている。最初の自治体を、インポートを使って作成する場合は、『システムマスタの入れ替え』を選択することを推奨する。 システムマスタが異なるデータを、『システムマスタの入れ替え』を選択せずにインポートした場合、インポートエラーもしくはインポートに成功したとしても正常に機能しない場合がある。	
⑪	パスワード	対象自治体サイトで管理者権限を持つ班名に紐づくパスワードを設定する。	password
⑫	e コミマップユーザアカウント	対象自治体サイトと情報を連携する e コミマップのユーザアカウントを設定する。	user
⑬	設定テンプレート	設定をインポートする場合に、推奨設定のエクスポートデータを指定する。	

		<p>「アップロード済みの設定テンプレート」はインポート失敗時に前回の設定テンプレートを選択できるようになっているため、設定テンプレートを再度アップロードする必要がない。インポート成功すると、アップロード済みの設定テンプレートは削除される。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一の UUID で復元する</li> <li>・新たな UUID を発行する</li> </ul> <p>上記は登録情報レイヤの地物に UUID が設定された場合の復元方法を指定する。          ※詳細は e コミマップの登録情報レイヤ項目設定の「UUID の利用」を参照。</p>	
⑭	マスタマップの復元先	e コミマップで復元されるマスタマップの復元先を設定する。選択することも可能	



登録実行後、404 エラーが発生する場合は、アップロードする設定テンプレートのファイルサイズが上限を超えている場合がある。  
 「7.2 ファイルアップロード上限の変更」でアップロードサイズの上限を確認し、必要に応じて上限の設定変更をすること。

## 5.6. 自治体をV2.0にアップグレードする

### 5.6.1. 時系列化

V2.0 以降ではすべてのレイヤは時系列化する必要があるため、自治体セットアップの時系列化メニューから時系列化を行う。

メッセージ「**時系列レイヤに変換していないレイヤがあります。時系列化を行ってください。**」と表示される場合は時系列化ボタンをクリックして時系列化を行う。

時系列化すると、災害マップはマスターマップに統合され、登録情報レイヤは時系列レイヤに変換される。

時系列化

すべてのマップ・レイヤーを時系列変換します。  
時系列レイヤに変換していないレイヤがあります。時系列化を行ってください。

マップ一覧

種別	地図タイトル	時系列レイヤ変換
マスターマップ	20170318	未変換
訓練マップ	【訓練】訓練	未変換

マスターマップレイヤー一覧

種別	レイヤID	レイヤ名称	時系列レイヤ変換
レイヤ情報	c1	駅	変換済み
レイヤ情報	c2	入山規制ポイント	変換済み
レイヤ情報	c3	土砂災害警戒情報	変換済み
レイヤ情報	c4	みなし避難所	変換済み
レイヤ情報	c5	協定業者	変換済み
レイヤ情報	c6	寒火山災害（火口）状況	変換済み
レイヤ情報	c7	火山災害（火口）想定結果	変換済み
レイヤ情報	c8	テレメータ（水位計）	変換済み
レイヤ情報	c9	ダム放流情報	変換済み
レイヤ情報	c10	警察	変換済み
レイヤ情報	c11	体制	変換済み
レイヤ情報	c12	消防	変換済み
レイヤ情報	c13	病院	変換済み
レイヤ情報	c14	避難者名簿	変換済み
レイヤ情報	c15	福祉避難所避難者名簿	変換済み
レイヤ情報	c16	職員	変換済み
レイヤ情報	c17	防災ヘリポート	変換済み
レイヤ情報	c18	土石流センサー	変換済み
レイヤ情報	c19	空港	変換済み
レイヤ情報	c20	港湾	変換済み
レイヤ情報	c21	公園	変換済み
レイヤ情報	c22	ガソリンスタンド	変換済み
レイヤ情報	c23	テレメータ（雨量計）	変換済み
レイヤ情報	c24	重要路線	変換済み
レイヤ情報	c25	投稿写真	変換済み
レイヤ情報	c26	過去の被害実績	変換済み
レイヤ情報	c27	規制・復旧区間	変換済み

時系列化

### 5.6.2. 災害類型統合化

V2.0 では災害類型は廃止となり、メニュー階層は平常時・災害時の2択となる。

保存ボタンをクリックして災害類型統合を実施し、「**すでに災害類型統合化済みです。**」というメッセージが表示されることを確認する。

官民協働危機管理クラウドシステム 自治体セットアップ 1: 要知
管理画面 [admin] ログアウト

自治体情報

ユーザ・メニュー階層

時系列化

災害類型統合化

ウィザード

人口インポート

#### ログインユーザの管理とメニュー階層の設定

すでに災害類型統合化済みです。

タスク	サブタスク	メニュー	本部	総務担当	広報担当	消防本部	避難所担当	保健担当	道路担当	河川担当	商工担当	施設担当	民政担当	上位機関	管理者	
1.監視・観測	A.監視・観測情報	①監視・観測情報（一元表示）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		②監視カメラ情報	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		③テレメータ潮位情報	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
		④テレメータ水位情報	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		⑤テレメータ雨量情報	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
		⑥ダム放流情報	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
2.本部設置	A.体制発令	①体制の発令、移行、解除	1												1	
		②対応状況	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		③対応履歴	3													3
		体制の集計・総括	4													
		！体制集計リスト	5													

保存

## 6. アップグレード手順

アップグレードをする前に動作環境を推奨バージョンに合わせておく必要があるため、手順「動作環境のインストール」を確認して、必要に応じて推奨バージョンの動作環境をインストールしておくこと。

### 6.1. e コミマップのアップグレード

別紙「e コミマップ\_インストール手順書\_3.0\_(アップグレード 2.7.0→3.0).md」を参考に e コミマップと必要に応じて GeoServerなどをアップグレードすること。

データファイルの移動は、  
/home/map/webapps/map/files にあったものを、  
/usr/local/apache-tomcat-11/webapps/map/files に移動する。

なお、レイヤの変更履歴ログ (EditLog) については、  
/home/map/logs にあったものを、  
/usr/local/apache-tomcat-11/webapps/map/WEB-INF/logs に移動する。

e コミマップ 2.7 では起動ポートを 18080 にしていたが、e コミマップ 3.0 では起動ポートが 3.0 になるため、SLD のアイコン URL 修正が必要である。  
下記のコマンドで一括置換する。

```
cd /usr/local/apache-tomcat-11/webapps/map/files/styles/  
find . -name "*.sld" -exec sed -i "s#http://localhost:18080/map#http://localhost:8080/map#g" {} \;
```

#### 6.1.1. GeoServer アップデート後の追加設定

本システムと連携するための追加設定が必要です。

「4.1GeoServer の拡張機能 querylayer モジュールの追加」を行ってください。

## 6.2. Tomcat の移行手順

Tomcat9 から Tomcat11 への移行手順を示す。

「2.2.8 Tomcat のインストール」にて Tomcat11 をインストールしておくこと。

### 6.2.1. Tomcat の停止

```
service tomcat9 stop
```

### 6.2.2. TOMCAT\_HOME の変数を設定

作業用に一時的に変数を設定する

```
export TOMCAT9_HOME=/usr/local/apache-tomcat-9.0.108
export TOMCAT11_HOME=/usr/local/apache-tomcat-11.0.15
```

### 6.2.3. 本システムの移動

移動して、オーナーを tomcat に変更する。

```
mv ${TOMCAT9_HOME}/webapps/SaigaiTask ${TOMCAT11_HOME}/webapps/
chown -R tomcat ${TOMCAT11_HOME}/webapps/SaigaiTask
```

### 6.2.4. コンテキスト定義の移動

```
mkdir -p ${TOMCAT11_HOME}/conf/Catalina/localhost

mv ¥
${TOMCAT9_HOME}/conf/Catalina/localhost/SaigaiTask.xml ¥
${TOMCAT11_HOME}/conf/Catalina/localhost/
```

### 6.2.5. 古い Tomcat の削除

Tomcat9 が不要であれば削除する。

```
systemctl disable tomcat9
rm -f /etc/systemd/system/tomcat9.service
rm -fr ${TOMCAT9_HOME}
```

### 6.2.6. ファイルの所有者変更

Tomcat が tomcat ユーザで動作するため、

/usr/local/apache-tomcat-11/webapps/SaigaiTask 以外にも読取・書込権限の付与が必要なファイル・ディレクトリのパスがいくつかある。

下記の手順でパスを確認してオーナーを変更すること。

管理画面で設定するパスはデータベースに接続して、SQL を実行してパスを確認できる。

下記の操作でパスを確認して所有者を tomcat に変更すること。

データベース接続コマンド

```
psql -U postgres ecommap_saigaitask
```

-- SOBO 認証用 SFTP 鍵ファイルの確認 SQL

```
select distinct sftpprivatekeyfile from soboauth_info;
```

-- SOBO 認証用 HTTPSS クライアント証明書の確認 SQL

```
select distinct httpsclientcert from soboauth_info;
```

-- SOBO-ZIP ローカル出力先ディレクトリの確認 SQL

```
select distinct directory from soboexport_info;
```

SaigaiTask.properties でファイルパスを確認し、所有者変更すること。

```
${TOMCAT11_HOME}/webapps/SaigaiTask/WEB-INF/classes/SaigaiTask.properties
```

```
#GEOTIFF_XYZ_DIR=/var/www/html/xyz/geotiffayer
```

### 6.2.7. Tomcat を起動する前に

次のページの手順に従い、本システムをアップグレードする必要がある。

### 6.3. 本システムのアップグレード

本システムのアップグレードは動作環境をアップグレードバージョンの推奨バージョンに合わせてから行うこと。Tomcat は 11 が必要である。

#### 6.3.1. Tomcat の停止

```
systemctl stop tomcat11
```

#### 6.3.1. TOMCAT\_HOME の変数を設定

作業用に一時的に変数を設定する

```
export TOMCAT_HOME=/usr/local/apache-tomcat-11
```

#### 6.3.2. バックアップ

プログラムとデータベースをバックアップする。

```
tar zcf /tmp/SaigaiTask-BAK-$(date "+%y%m%d%H%M%S").tar.gz ¥
  --directory=${TOMCAT_HOME}/webapps/ SaigaiTask
pg_dump -Upostgres -Z 9 ecommap_saigaitask > ¥
  /tmp/ecommap_saigaitask-BAK-$(date "+%y%m%d%H%M%S").dmp.gz
```

あとで確認しやすいように現状の設定ファイルをコピーしておく。

```
cd ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/WEB-INF/classes/
find . -name "*.properties" -exec cp -p {} {}.$(date "+%y%m%d%H%M%S") ¥;
```

#### 6.3.3. 古いソースの削除

```
rm -fr ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/WEB-INF/lib
rm -fr ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/WEB-INF/classes/jp
rm -f ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/WEB-INF/classes/data/sql/*.sql
rm -fr ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/WEB-INF/view
rm -fr ${TOMCAT_HOME}/work/Catalina/localhost/SaigaiTask/
rm -fr ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/js/
rm -fr ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/admin-js/
rm -fr ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask/css/
```

#### 6.3.4. 本システムパッケージの展開および各種設定

「5.2 本システムパッケージの展開および各種設定」にしたがってパッケージを展開および設定すること。

V2.0 以前から V2.1 以降にアップグレードする場合はフレームワーク変更のため不要になった下記の設定ファイルを削除する。

```
cd ${TOMCAT_HOME}/webapps/SaigaiTask
rm -f WEB-INF/classes/application_ja.properties
```

```
rm -f WEB-INF/classes/s2container.dicon
rm -f WEB-INF/classes/s2jdbc.dicon
rm -f WEB-INF/classes/convention.dicon
rm -f WEB-INF/classes/customizer.dicon
rm -f WEB-INF/struts-config.xml
rm -f WEB-INF/validator-rules.xml
```

### 6.3.5. 本システムの起動

「5.4 本システムの起動」に従って、本システムを起動すること。

### 6.3.6. 自治体を V2.0 にアップグレードする

V1.x からアップデートした場合は、システム起動後に「5.6 自治体を V2.0 にアップグレードする」を実施すること。

## 7. その他の設定

まれに起こる不具合・エラーを回避するために以下の設定をしておくことを推奨する。

### 7.1. システム時間の設定

システムクロックが UTC 時間になっている場合は、以下のファイルを修正後、e コミマップを再起動する必要があります。

システムクロックの設定の確認は以下の方法で行います。Redhat,CentOS の場合。

```
cat /etc/sysconfig/clock
```

ここが「UTC=true」となっている場合は、以下の設定とサーバの再起動が必要です。

※Java のみ UTC 時間で動作している場合もあります

webapps/map/WEB-INF/classes/ResourceInfo.properties 内

```
SYSTEM_CLOCK_USES_UTC=0
```

を以下に変更

```
SYSTEM_CLOCK_USES_UTC=1
```

### 7.2. ファイルアップロード上限の変更

SaigaiTask/WEB-INF/classes/application.properties を修正する。

```
spring.servlet.multipart.max-file-size=500MB
```

```
spring.servlet.multipart.max-request-size=600MB
```

e コミマップの場合は、下記を修正する。(初期値 8MB と、25MB)

/usr/local/apache-tomcat-11/webapps/map/WEB-INF/web.xml

```
<servlet>
  <servlet-name>jsp</servlet-name>
  <servlet-class>org.apache.jasper.servlet.JspServlet</servlet-
class>
  <multipart-config>
    <max-file-size>8388608</max-file-size>
    <max-request-size>27262976</max-request-size>
    <file-size-threshold>0</file-size-threshold>
  </multipart-config>
</servlet>
```

### 7.3. ファイルアップロード許可する拡張子の追加

SaigaiTask/WEB-INF/classes/PathInfo.properties および e コミマップの

//usr/local/apache-tomcat-11/webapps/map/WEB-INF/classes/PathInfo.properties

の UPLOAD\_EXT にカンマ区切りで追加する。

```
### Upload File ext
```

```
UPLOAD_EXT=png, gif, jpg, jpeg, zip, lzh, pdf, doc, xls, ppt, txt, csv, kml, kmz, xml, ht
ml, mp3, wma, swf, flv, 3gp, 3g2, noa, mov, mpeg, mpg, wmv, avi, mp4, asf, xlsx, pptx, docx
```

また、アイコンファイルを下記のパスで配置する。

```
//usr/local/apache-tomcat-11/webapps/map/map/fileicons/<拡張子>.png
```

HTML ファイルをアップロード可能にする場合は、アップロードされた HTML ファイルを Web ページではなくテキストファイルとして表示させる設定を追加する。

```
/etc/httpd/conf.d/mod_proxy.conf
```

```
# ファイルアップロードで HTML の XSS 対応
# e コミマップの添付ファイルディレクトリ : /map/files/contents/
# 官民のアップロードファイルディレクトリ : /SaigaiTask/upload/
<LocationMatch (/map/files/contents|/SaigaiTask/upload)/.*.html>
    # HTML ファイルをテキストとして表示させる
    Header set Content-Type text/plain
    Header set X-Content-Type-Options nosniff

    # ブラウザで表示ではなく、ダウンロードさせる
    #Header set Content-Disposition "attachment;"
</LocationMatch>
```

## 7.4. HTTPS で接続する場合に必要な設定

◇ HTTP でリダイレクトされてしまう問題の対応

Apache httpd に SSL 証明書をインストールし、Tomcat へのプロキシは HTTP を利用した構成の場合に、HTTPS で接続しているにも関わらず、リダイレクトした際に HTTP で接続してしまうという問題が発生する。その対応方法について記載する。

- Apache httpd の設定

/etc/httpd/conf/httpd.conf headers\_module がロードされていることを確認する。

```
LoadModule headers_module modules/mod_headers.so
```

/etc/httpd/conf.d/mod\_ssl.conf などの、リバースプロキシの設定をしている箇所にて、HTTP リクエストヘッダに「X-Forwarded-Proto: https」を付与するように RequestHeader 行を追加する。

```
RequestHeader set X-Forwarded-Proto 'https'
ProxyPass          /map http://localhost:8080/map
ProxyPassReverse   /map http://localhost:8080/map
ProxyPass          /SaigaiTask http://localhost:8080/SaigaiTask
ProxyPassReverse   /SaigaiTask http://localhost:8080/SaigaiTask
```

- Apache Tomcat の設定

/usr/local/apache-tomcat-11/conf/server.xml にて、Host タグの中に RemoteIpValve を追加し、リクエストスキームを http から X-Forwarded-Proto に指定されている https に書き換えるようにする。

```
<Valve className="org.apache.catalina.valves.RemoteIpValve"  
    protocolHeader="x-forwarded-proto"  
/>
```

詳細については Tomcat のドキュメントを参照のこと。

<https://tomcat.apache.org/tomcat-9.0-doc/api/org/apache/catalina/valves/RemoteIpValve.html>

◇ HTTP/2 の設定について

HTTPS 運用の場合、HTTP/2 を有効化することで、地図画面の表示速度を高速化できます。mod\_http2 を有効化し、「Protocols h2 http/1.1」のように h2 プロトコルを有効化します。詳しくは公式ドキュメント「[Apache Module mod\\_http2](#)」を参照ください。

## 7.5. GeoServer の HTTP リクエストヘッダの上限の変更

フィルターを設定した地図画面で、地物の数が多い場合に地図が正常に表示されないことがある。その場合は、GeoServer の HTTP リクエストヘッダの上限を変更する。

/home/geoserver/start.ini

```
# request header buffer size  
#jetty.request.header.size=8192  
jetty.request.header.size=32768
```

※上記の例ではデフォルトの 4 倍に設定。設定値は利用状況に合わせた設定にすること。

## 8. 問合せ先

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

総合防災情報センター

E メールアドレス : [support\\_cloud@bosai.go.jp](mailto:support_cloud@bosai.go.jp)

住所 : 〒305-006 茨城県つくば市天王台 3-1

<http://ecom-plat.jp/k-cloud/>